

通学合宿にチャレンジしたい地域を応援します。

こ

## 地域はみんなの宝島

こどもがまんなか みんなで「ずく」出し楽しもう！

こどもがまんなかにいることで、  
大人がふるさとのことを考えるようになりました。  
こどもたちはふるさつを知ること、  
なんとかしたいと思うようになりました。  
こどもも、大人も、地域もみんなで育ち合える場をつくりたい。



しあわせ  
信州

つうがく

通学合宿手引き



## 目次

### 手引き

- 1 通学合宿って? . . . . . 1
    - ・通学合宿とは
    - ・こんな効果が
  - 2 こんな流れで実施します . . . . . 2
    - (1) 実行委員会設置
    - (2) 実行委員会開催
    - (3) 参加者募集・決定
    - (4) 事前説明会開催
    - (5) 実行委員会反省会
  - 3 キーワードは「人」 . . . . . 4
    - (1) 通学合宿リーダー（指導者）
    - (2) スタッフ（ボランティア）の確保
    - (3) 県内大学・短期大学の通学合宿への協力状況
  - 4 通学合宿で大切なこと . . . . . 9
    - (1) 宿泊施設の確保
    - (2) 財源
    - (3) 実施時期の検討
    - (4) 学校・教育委員会への協力依頼
    - (5) プログラムの検討
    - (6) 登下校の注意点
    - (7) 食事づくり
    - (8) 入浴の方法
    - (9) その他留意すること
  - 5 連携は成功のもと . . . . . 12
  - 6 通学合宿を効果的に実施するヒント . . . . . 13
    - (1) 主催者へのヒント
    - (2) 参加する子ども・保護者へのヒント
  - 7 情報管理の徹底 . . . . . 14
- 「地域はみんなの宝島 通学合宿」実地研修実施要領 . . . . . 15

### 資料編

- 参加者募集チラシ . . . . . 18
- 参加申込書（別紙） . . . . . 20
- ボランティア募集チラシ . . . . . 21
- 保護者説明会資料 . . . . . 22
- 通学合宿のしおり . . . . . 24
- 実施計画書の作成事例 . . . . . 27
- 指導者（スタッフ）の皆様へ . . . . . 30

### 安全管理の手引き

- 1 安全・健康管理 . . . . . 34

(1) 予防対策	
(2) 発生時の対処	
(3) 保険への加入	
2 施設周辺等における危機管理	38
(1) 防止対策	
(2) 事故・事件等発生時の対処	
3 火災・地震等の災害対策	39
(1) 防止対策	
(2) 発生時の対処	
4 不審者侵入対策	41
(1) 侵入防止対策	
(2) 発生時の対処	
5 衛生管理	42
(1) 予防対策	
(2) 発生時の対処	
6 危険生物・アレルギーへの対応	44
(1) 危険生物への対応	
(2) 毒草への対応	
(3) アレルギーへの対応	
事故発生時の対処と事後処理手順 他	46
7 情報管理の徹底	
<b>県内における通学合宿の事例</b>	<b>54</b>
<b>参加した子どもたちの作文</b>	<b>80</b>
<b>アンケート</b>	<b>84</b>



takarajima

# 1 通学合宿って？

## 通学合宿とは

- **通学合宿とは**  
地域の公民館・集会所・青少年施設・学校など宿泊可能な施設で、異年齢の子どもたちが共同生活を行いながら通学します。
- **目的**  
かつてのように家庭での子どもの仕事がない現代に、異年齢集団での共同生活の機会を与え、衣・食・住といった生活体験を通じて、お互いの立場を理解し、自らの役割を認識して協力し合う心を育むとともに、基本的な生活習慣の確立や日常生活に必要な生活技能を習得し、子どもの「社会力や生きる力の向上」を目的としています。
- **通学合宿が地域にもたらすもの**  
子どもたちの活動を支援する立場で地域の大人たちの参画を促し、地域の子どもは地域で育む意識を持つことにより、家庭・地域の教育力の向上を期待しています。

## こんな効果が

### 子ども

一定期間、親元を離れて異年齢集団の共同生活

- 仲間とのコミュニケーションが必要
- 自分のことは自分で
- 保護者の大変さが分かる
- “ずく”を出すこと

- **協調性**が身に付きます
- 自分のことは自分でやる **自主性**が身に付きます
- やり遂げることで **自己肯定感**が高まります
- 親や地域への **感謝の心**が育ちます
- “ずく”を出すことで **忍耐力**が身に付きます

### 保護者

一定期間、親元から子どもを離して異年齢集団の共同生活

子どもは**大切なかけがえのない存在**であることに改めて気づかされます

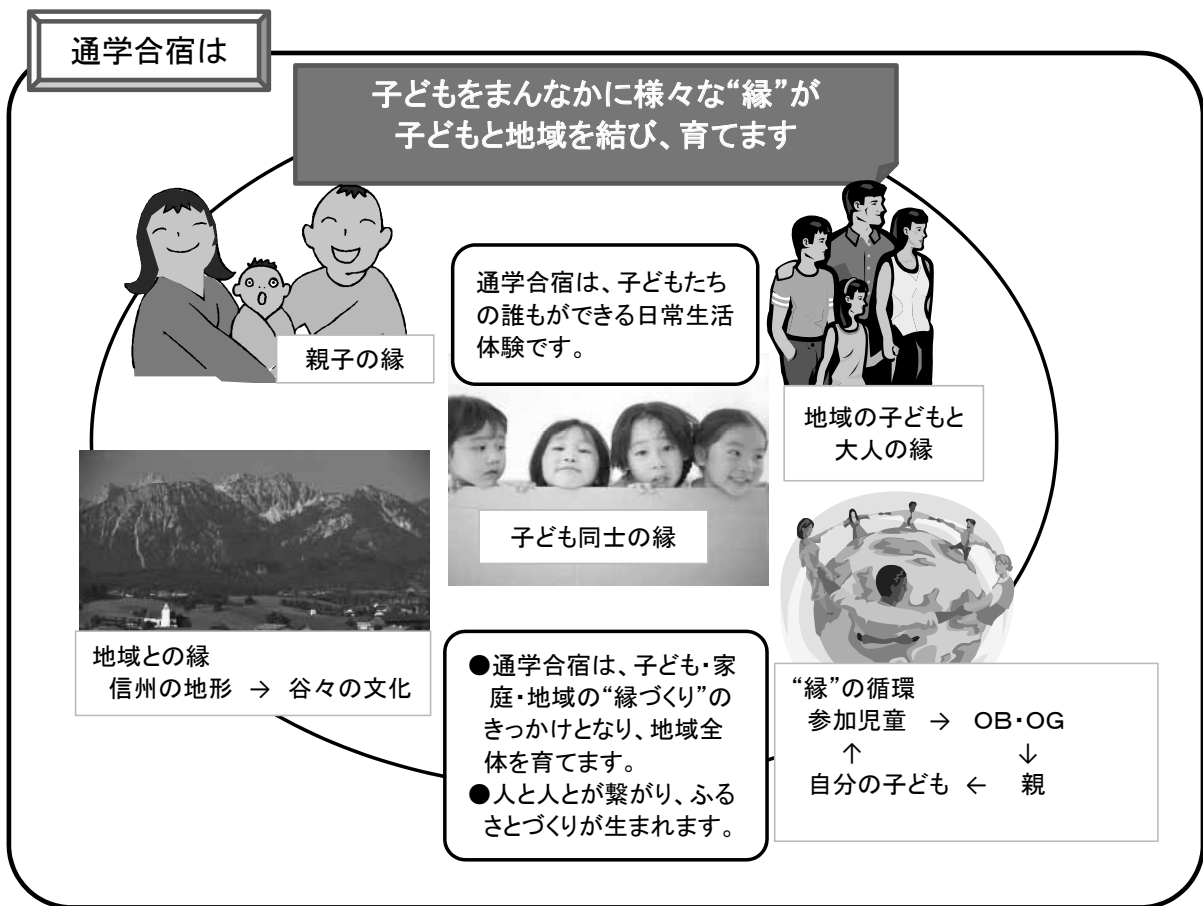
“ずく”を出すことで住民同士の絆が深まります

### 地域

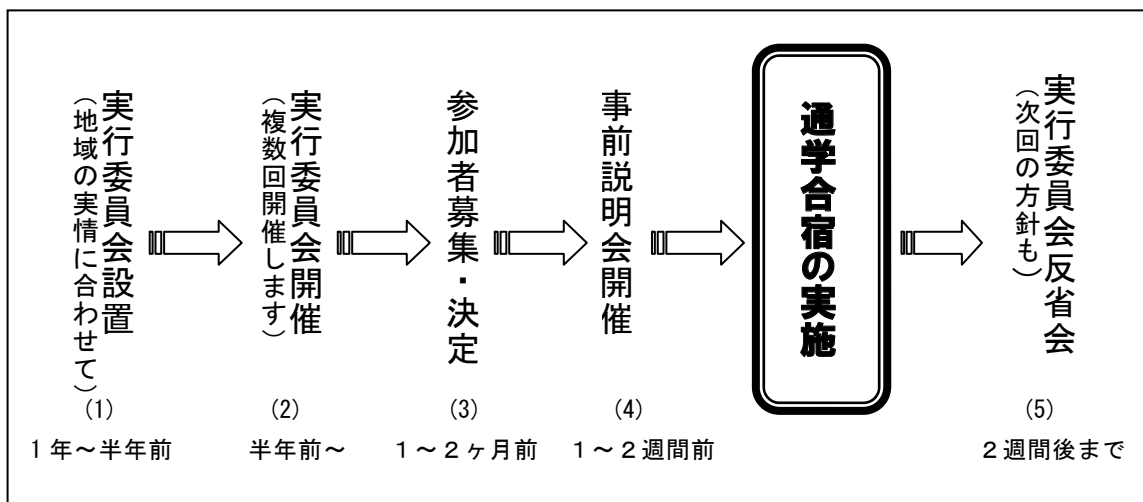
実行委員やボランティアで参画

普段から地域の子どもたちに目が行くようになります

- 子どもたちと地域の**絆**が深まります
- **地域の子どもは地域で育てる意識**が高まります



## 2 こんな流れで実施します。



### (1) 実行委員会設置

通学合宿を実施する組織（実行委員会）を、地域の实情に合わせて立ち上げます。

- 協力を得られるPTA・自治会・子ども会・婦人会等の地域の団体のメンバーにより実施について話し合います。
- 通学合宿について共通理解を深め、意思統一を図ります。

## (2) 実行委員会開催（複数回開催）

通学合宿実施に向けて関係者と話し合いをし、事業計画を立てます。

### ① 目的の確認と意思統一

○活動を通じて何を得てもらいたいのか話し合います。

【子ども・地域社会・家庭に関する目的】の確認

○それぞれの“目的”について共通認識を持ち、実行委員同士の意思統一を図ります。

### ② 地域資源の整理

○地域においてボランティアやもらい風呂などで協力が得られる方々、宿泊施設、資金（各種助成金）などの資源を整理します。

### ③ プログラムの作成

○開催時期（他の学校行事との調整など）、宿泊施設（定員、風呂、調理施設など）、参加対象（学年）、予算（参加者負担金額など）、スケジュール（実施期間）などを整理します。

○事業計画・プログラムの作成にあたっては、事前に学校、教育委員会、警察、消防、病院等の関係機関に連絡して協力を依頼します。

○緊急連絡体制の整備、事前の現地確認、参加者の健康管理など可能な限り安全に配慮して計画を作成します（安全管理については「安全管理の手引き」参照）。

○当日のボランティアスタッフも確保しておきましょう。

## (3) 参加者募集・決定

プログラムができたら参加者を募集します。

○子どもたちが参加したくなるような募集案内を作成し、学校や地域の広報誌を通じて参加者を募ります。

○希望者が多い時には、場合によっては抽選による参加児童の制限をする必要もあります。その際には不公平のないように例えば公開による抽選会をするなど配慮が必要となります。

## (4) 事前説明会開催

ボランティアを含む運営スタッフの事前打合せを行います。

参加者が決定したら、参加児童及び保護者を対象とした事前説明会を開催します。

○当日のボランティアスタッフ、実行委員の事前打ち合わせを予め実施することで意志統一を図ります。

○事前説明会では、事業の趣旨を児童及び保護者に説明し、協力を求めます。

## (5) 実行委員会反省会

通学合宿終了後反省会を開催し、次回の方針を立てます。

○参加児童、保護者、実行委員からアンケートをとって、事業計画等について振り返り、来年度以降に向けての参考にします。反省会では、課題を抽出し次回の方向性まで決めてしまうとよいでしょう。

○事業費の検証を行い、決算報告を行います。来年度以降の継続的な実施のためにも経費の見直しについて話し合います。

## 通学合宿Q&A

Q 1 通学合宿はいつ頃始まったのですか？

A 1 国立教育政策研究所社会教育実践研究センターが行った「地域における通学合宿の実態に関する調査研究」によると、昭和 54 年に静岡県田方郡土肥町教育委員会で、昭和 57 年度に同県榛原郡榛原町立坂部小学校で実践されました。福岡県では、飯塚市（旧庄内町）で昭和 58 年に長期（通学）キャンプが始まりました。

Q 2 通学合宿はどのくらい行われているのですか？

A 2 国立教育政策研究所社会教育実践研究センターが行った「地域における通学合宿の実態に関する調査研究」によると、平成 18 年度に全国で実施された通学合宿は 349 団体で 808 事業にのぼり、参加した子どもの数は 23,331 人になります。

長野県内で平成 25 年度に実施された通学合宿は、14 市町村内の 18 箇所となります。

## 3 キーワードは「人」

### (1) 通学合宿リーダー（指導者）

通学合宿には、危機管理に対する知識（リスクマネジメント）、プログラムの企画・実施、学校・地域との調整及び連携、子どもの自主的な行動への導き等、様々なノウハウが必要であり、これらを総合的にコーディネートできる指導者が不可欠です。

そこで県では、これから通学合宿を始める行政の担当者、地域の有志の方などのために、先進的に通学合宿を実施している団体等の協力をいただき、相談及び研修制度を設けました。

これらの制度を有効にご利用いただき、効果的で安全・安心な通学合宿を始めてみませんか。

ステップ 1

まずは情報収集をします。事例集を参考にするとともに、実施に当たってヒントなど必要な情報を集めます。



ステップ 2

実際に通学合宿を実施している場所で研修することをお勧めします。それぞれ特徴ある通学合宿を実施していますので、これからどんな通学合宿を実施したいのかある程度ビジョンを持つとよいでしょう。

また、可能な限り企画段階から参加すると、実際に通学合宿を企画する際の参考になります。





## 【ステップ1】

通学合宿を効果的に実施するヒントなど、下記の紹介団体からは、積み重ねたノウハウを惜しみなく提供していただけます。ご希望の団体へお繋ぎしますので、必ず下記相談窓口へ申し込んでください。ただし、一部の団体はコンサルティング料金が必要となります。

### <通学合宿相談窓口>

長野県企画部次世代サポート課

☎：026-235-7210（直通）

メール：[jisedai@pref.nagano.lg.jp](mailto:jisedai@pref.nagano.lg.jp)

### <紹介団体等>

この手引きを作成するにあたり、協力いただいた団体等に協力を依頼しました。

#### ☆国立信州高遠青少年自然の家

特 徴	通学合宿をはじめ、様々な体験活動を提供しています。
実施時期	通年（実施団体の希望する日程）

#### ☆上田市教育委員会 川西公民館

特 徴	川西公民館主催により実施しています。
実施時期	6月中旬（3泊4日）

#### ☆岡谷市教育委員会 生涯学習活動センター

特 徴	ジュニアリーダーの企画運営により実施しています。
実施時期	9月下旬（2泊3日）、10月上旬（2泊3日）

#### ☆青木村教育委員会

特 徴	「信州大学教育学部：信大YOU遊未来」の全面的な協力により実施しています。
実施時期	5月中旬（6泊7日）

#### ☆特定非営利活動法人グリーンウッド自然体験教育センター

特 徴	下伊那郡泰阜村において山村留学を実践しているNPO法人です。
実施時期	通年

#### ☆キャンパーズヴィレッジ自然学校

特 徴	自然体験プログラムの提供やリスクマネジメントが専門です。通学合宿全体の企画・運営をお手伝いします。
実施時期	通年



takarajima

## 【ステップ2】

ステップ1に掲載している団体は、**実地研修を受け入れていただけること**になっています。

それぞれ特徴があり、ノウハウも蓄積されているため、**実地研修**をすることで通学合宿を始めるにあたり非常に参考になります。

実地研修を希望される場合は、希望する先の**実施時期や特徴**を参考に、別紙「通学合宿実地研修実施要領」により下記へ申し込んでください。

受講費用をご負担いただくこととなりますが、金額は研修受入団体により異なります。

### ＜通学合宿実地研修申し込み先＞

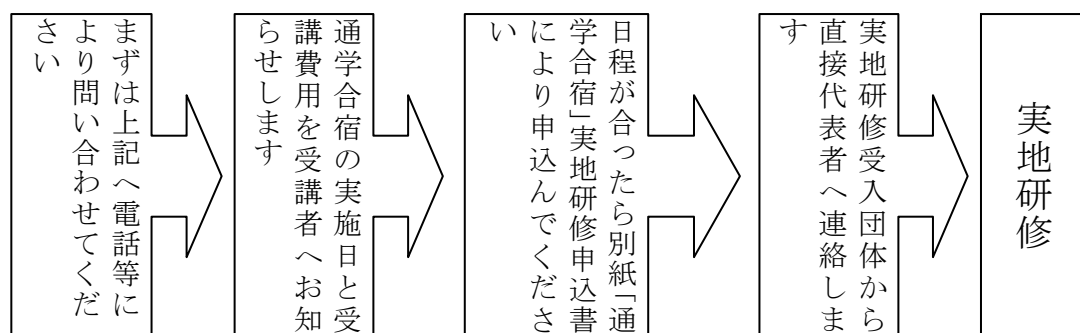
長野県県民文化部次世代サポート課

☎：026-235-7210（直通）

フакミリ：026-235-7087

メール：[jisedai@pref.nagano.lg.jp](mailto:jisedai@pref.nagano.lg.jp)

☆研修までの流れ



## (2) スタッフ（ボランティア）の確保

通学合宿は「平日の宿泊」であるため、宿泊を担当するスタッフに大きな負担がかかります。役割分担を平準化して**特定の人に負担をかけない**よう配慮が必要です。実行委員会のスタッフ及びボランティアの役割分担を行動計画表（タイムテーブル）にまとめ、役割分担を平準化します。

なお、ボランティアとして協力していただける方々への謝礼についても、予め検討しておく必要があります。全体の企画運営の指導・チェックを依頼する場合等で負担が大きいと判断をする場合などは有償とするなど、地域の実情に合ったボランティアの確保が必要です。

【スタッフの役割分担の例】

実行委員長	運営面全体の管理
副委員長	実行委員長の補佐
通学合宿リーダー	プログラムの企画、リスクマネジメント総括、宿泊施設、学校など関係機関との連絡調整
庶務・会計担当	資料作成、保険手続き、予算管理、ボランティア総括、開校式・閉校式の進行
食事担当	衛生管理、献立の確認、食事全体の世話
記録担当	各種会議・打ち合せでの記録（議事録）、活動写真の撮影、各日の活動記録、実績報告作成、参加者への記念写真の配布
生活指導担当	子どもたちの生活指導全般、入浴指導、健康管理、就寝時の様子を観察
物品管理担当	必要な物品の購入・納品・管理、生活に必要な備品類の確認・手配
宿泊担当	夜間における子どもたちの安全確保

【ボランティアとして協力をお願いする組織・者をお願いする事項の例】

ボランティア組織・者	協力をお願いする内容
P T A、子ども会、青少年健全育成会、オヤジの会、老人会、婦人会	実行委員会の中心となり、コーディネーターとしてさまざまな場面で協力
自治会	集会所等の宿泊許可や、地域のさまざまな方々へのボランティアとしての協力依頼などでの協力
民生委員・児童委員、社会福祉協議会（地区社協）	民生委員・児童委員や地域でボランティア活動をしている方々に登下校時などで協力
食生活改善推進員・食育ボランティア	食事作りなどで協力
自然体験活動推進協議会、ボーイスカウト・ガールスカウト	野外活動プログラム、リスクマネジメントの専門家として協力
大学生・中高生	学習・食事作りなどで協力、合宿期間中のお姉さんお兄さん・親代わりとして協力

(3) 県内大学・短期大学の通学合宿への協力状況

県内では大学生・短大生が通学合宿を支援している例があります。次に掲載してある大学の学生は通学合宿支援の実績があります。学生にボランティア等サポートを依頼する際には、大学の夏休み等長期休み期間中に通学合宿を企画するなどの配慮が必要となります。なお、大学は学生を派遣しているわけではないので、ご要望に応じかねる場合もあります。

また、掲載していない大学でも、教員志望の学生やボランティアサークルの学生などを紹介していただける場合もあります。

【通学合宿のサポート実績がある大学・短期大学】

大学名	担当者等	連絡先
信州大学教育学部：信大 YOU 遊未来	特任教授 土井 進	直通・FAX 026-238-4260
長野大学	地域連携センター	直通 0268-39-0007
松本大学	地域づくり考房『ゆめ』	直通 0263-48-7213
飯田女子短期大学	学生課：塩澤、塩原	代表 0265-22-4460
信州豊南短期大学	地域連携室：教授 豊永 誠	代表 0266-41-4411
清泉女学院短期大学	副学長：西山 薫	代表 026-295-5665

下記の団体は、長野県内の大学生が合同で子どもたちとの自然体験活動を企画運営しています。自然体験活動の企画運営の依頼や、通学合宿に障がいを持つ子どもが参加する際の相談等にもお答えします。

団体名	担当者等	連絡先
TEAM'95 (長野県短期大学内人 間関係論研究室)	教授：上原 貴夫	代表 026-234-1221

なお、国立信州高遠青少年自然の家では独自にボランティアの方を養成していますので、問い合わせてみてください。

国立信州高遠青少年自然の家

電話：0265-96-2525（代表）

1週間程度の長期であれば、休日を利用して自然体験プログラムを組み入れることもできます。県内には様々な自然体験プログラムを提供している団体や個人があります。全国に自慢できるこの自然豊かな信州をフィールドに、子どもたちの生きる力を引き出してみませんか。

【自然体験プログラムの講師派遣紹介】

団体名	連絡先
特定非営利活動法人 自然体験推進協議会	〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1 国立オリンピック記念青少年総合センター内 ☎ 03-6407-8240 FAX: 03-6407-8241 Mail: info@cone.jp

※講師派遣には原則派遣費用が必要です。金額等派遣に係る条件は団体・個人ごとに異なります。

## 4 通学合宿で大切なこと

### (1) 宿泊施設の確保

実施において一番の課題は宿泊施設です。宿泊施設については、公民館、集会所、青少年施設、学校などが想定されますが、このほかにも民宿、企業の研修施設、高校の合宿施設、短期であればキャンプ場なども含めて検討する必要があります。

宿泊施設の決定にあたっては、①登下校の安全確保、②食事（衛生管理）の問題、③入浴の方法などの課題が生じてきますが、これらについては下記により対処することも検討します。

#### ① 下校の安全確保

バスの借上げ、保護者（協力者）の送迎による登下校

#### ② 食事（衛生管理）

ケータリング、非常食体験など

#### ③ 入浴の方法

銭湯の利用、もらい湯、濡れタオルの使用（防災体験）などによる対応

このほかの課題にも工夫次第で対応できることがあります。

通学合宿は地域で作りに上げるところに意義がありますので、地域の資源を活用して知恵を出し合い、「どうしたら可能か」を考える機会としていただきたいと思います。

### (2) 財源

通学合宿は「日常生活の共同体験」であるため、実施にあたって多額な経費は必要ありません。宿泊施設の借料、協力者への謝礼、食費、保険料などは必要となりますが、なるべく多くの子どもたちに参加してもらうためには、参加者負担以外の財源の確保も検討する必要があります。

#### 【各種助成金等の例】

助成金等の種類	問い合わせ先
地域発元気づくり支援金	各地方事務所 地域政策課
ユース・アクションサポート事業	長野県青少年育成県民会議（県庁：次世代サポート課内） ☎026-235-7207（直通）
子どもゆめ基金	独立行政法人国立青少年教育振興機構 子どもゆめ基金部助成課 ☎0120-579081（フリーダイヤル）
学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業（放課後子供教室）	長野県教育委員会事務局 文化財・生涯学習課 ☎026-235-7437（直通）
公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム	長野県教育委員会事務局 文化財・生涯学習課 ☎026-235-7437（直通）
各市町村の地域づくりの助成金	市町村役場

その他、各自治体、PTA、育成会、自治会（公民館）、地元の商店街・企業等の助成制度を利用できる場合があります。

### (3) 実施時期の検討

年度当初や冬季は実施が難しいことから、実施可能な時期は限られてくるかと思えます。この期間は学校や地域の行事も多く計画される時期でもあるため、通学合宿を

企画する際には、これらの行事の開催時期を事前に確認し、併せて地域の実情に合わせた時期に設定する必要があります。

また、大学生ボランティアを依頼したい場合は7月下旬の大学の試験期間をはずし、大学の夏休み期間中である9月末までに実施日を設定するなどの配慮も必要です。

#### (4) 学校・教育委員会への協力依頼

通学合宿は「平日」に実施されるもので、子どもたちは宿泊施設から学校へ登校をして普段どおりの学校生活を送り、また宿泊施設へ帰ってきます。このため、実施にあたっては「学校側の理解と協力を得ること」が必須になりますので、実施計画を作成する前に話し合いをする必要があります。学校の理解と協力を得ることができれば、参加者募集やアンケートなどが容易になります。

また、市町村教育委員会に協力を得ることも進めるうえで重要です。教育委員会には地域の教育情報が集まっていますので、地域の人材・施設、活動プログラムなどの情報が得易いでしょう。

#### (5) プログラムの検討

プログラムの作成にあたっては可能な限り以下の点に配慮してください。

##### 【プログラム作成の基本姿勢】

- 子どもたちの安全と健康の確保を第一にしたプログラム
- 異年齢での交流が図られるよう配慮する
- 子どもたちが主体的に活動できるプログラム
- 地域貢献活動やボランティア活動へ目を向ける機会を設ける
- 学校での授業に支障が出ないように配慮する（欲張らずゆとりのある日程とする）
- 信州の自然環境を生かしたプログラム
- 地域のプロフェッショナルとの交流プログラム
- 子どもたちへの関わり方についての大人の共通認識
- 保護者への家庭教育に関する啓発

通学合宿では、子どもは「お客さん」ではありません。子どもたちがテレビやゲーム・親への依存などから離れ、共同生活を通して自発的な活動を促すよう導くことが重要です。

それには大人の子どもの関わり方についてスタッフ間で共通認識を持ち、「過干渉や過保護的な関わり」ではなく、時には大人も我慢をして「子どもの自主性・自発性を伸ばす関わり方」で子どもたちに接することが必要だと考えています。

また、保護者を対象とした家庭教育に関するプログラムを、通学合宿中に実施することも考えられます。地域の子どもを持つ親同士が集まり意見交換することで、自らの家庭教育を見直す機会と、地域全体で子どもたちを育み機運が高まることが期待できます。

##### 【スタッフの子どもへの関わり方】

- 基本的なことは教え、その後は子どもを信頼して見守りながら任せる
- 子どもたちに役割を与え、やり遂げる機会を与える
- 子どもたちの自発的な行動は可能な限り抑制せず見守る
- 子どもからのわがままな要求を容易に受容しない
- ルール違反や危険な行動をしたときには、理由を説明しながらきちんと叱る
- 頑張った子どもは褒める

## (6) 登下校の注意点

通学合宿中、子どもたちは普段の通学路とは異なる経路で登下校することになります。集団登下校をする場合も多いと思いますが、地域の子どもは地域で育てる意味からも、防犯ボランティアや子ども見守り隊など地域の方々に“付き添い”をお願いするといいでしょう。通学合宿を通して地域の方と交流する良い機会でもあります。

また、学年によって終業時間が異なる場合もありますので、事前に学校と下校について確認するとともに、通学路（経路）や危険箇所、不審者情報等についても事前に確認しておく必要があります。

## (7) 食事づくり

食事づくりは子どもたちにとって大きな楽しみの一つですが、献立の決定から食材の買出し・調理・配膳・片付けまでの一連の流れを、子どもたち自身が経験することで、親が毎日食事を作ってくれることの“たいへんさ”・“ありがたみ”を感じることができます。

子どもたちが楽しみながら主体的に“自炊”に取り組むことができるよう、子どもたちだけでは不十分なところは、大人がそっと支援します。

### ○献立の決定

- ・子どもが調理可能な献立（アレルギー対応）とし、栄養面でのバランスを考慮
- ・食育プログラムの検討

### ○食材の買出し

なるべく子どもが主体となり食材の予算・量を確認、行き帰りの交通安全に配慮

### ○調理

衛生管理、子どもたちへの役割分担の指示、調理時間の管理、低学年の子どもには簡単な作業をさせるなど危険行為の防止

包丁の使い方や火の扱いなど危険を伴うものについては、まずは必ず大人が手本を示してから子どもたちにやらせるなど、安全に配慮することが必要です。

施設・設備の都合で自炊が困難な場合には、給食・弁当の手配が必要となってきますので、それらの対処方法をあらかじめ検討するとともに、業者との打ち合わせを行います。

また、この機会を大規模地震などでの避難時を想定して「非常食体験」とすることも考えられます。

【食事にあたっては、食物アレルギーへの対応や食中毒など衛生面での注意も必要になります。詳しくは「安全管理の手引き」をご覧ください。】

## (8) 入浴の方法

子どもたちにとって、みんなと一緒にお風呂に入るとはとても楽しい思い出になりますし、入浴マナーを身に付ける絶好の機会であるとも言えます。

また、公民館などで宿泊する場合はお風呂がない施設がほとんどです。1泊程度ならお風呂に入らなくても・・・とも考えられますが、2泊以上の通学合宿では入浴は必要になります。

宿泊施設にお風呂がない場合には、

- ① 銭湯・温泉施設などを利用する
- ② 地域のお宅の浴室を借用する（“もらい湯”）

などが考えられます。

子どもたちと地域とのつながりを作るためにも“もらい湯”は非常に有効だと考えられます。“もらい湯”を実施するためには宿泊施設付近の家庭に協力を依頼することになりますが、事前に事業趣旨を説明し、理解してもらったうえで協力していただくこととなります。

最終日には子どもたちがお礼に伺うなど、みんなが気持ちよく取組に参加できるような配慮が必要となります。

#### (9) その他留意すること

##### ① 女子児童の体の変調への対応

環境が変わると、初経が訪れたり体に変調が現れることがあります。その際は即時保護者へ連絡します。生理用品は必ず準備しておくとともに、女性スタッフが不在になることがないよう気をつけます。

##### ② 友人関係

特定の友人と常に行動する児童へは、なるべく別々の仕事を与えるなど、他の子どもたちと交流できる機会を与えます。

##### ③ 夜尿への対応

事前に保護者と打ち合わせをし、夜間の起こし方、失敗してしまった時の対処の仕方等を確認しておきましょう。もし、失敗しても大丈夫と安心させて参加させてください。万が一失敗した時は、他の子が起きる前に着替える等の配慮をします。

##### ④ ホームシックになった子どもへの対応

ちょっとしたきっかけで「お家に帰りたい」と泣き出す子もいます。傍らに付き添い一緒にいるだけで信頼できる大人の存在に気づき安心します。翌日からは友だちの中に戻るものがほとんどです。

##### ⑤ 集団での入浴を嫌がる子

体にアザがある等で友達と一緒に入浴することに抵抗がある子もいます。なぜ一緒に入浴できないか、丁寧に聞くことが重要です。

##### ⑥ 寝ぼけくせへの対応

参加申込の際に「寝ぼけくせ」につきて記載があった場合は、保護者と連絡を取り、対応方法を確認しておきます。

## 5 連携は成功のもと

この取組は、子どもたちが自己効力感<sup>\*1</sup>・自己肯定感<sup>\*2</sup>を高め、コミュニケーション能力を向上させる狙いとともに、地域の子どもは地域で育む意識を高める目的があります。通学合宿を実施するためには、家庭・地域・学校の連携が不可欠であり、それらを再確認する機会でもあります。

また、信州は自然環境に恵まれていることから、自然体験活動の専門家が大勢います。初めて実施する際には、安全管理や体験活動のノウハウを持ったNPO等へ依頼することも検討してみます。子どもたちは楽しみながら達成感を得ることができることでしよう。

※1 自己効力感：自分にはここまでできるという自信

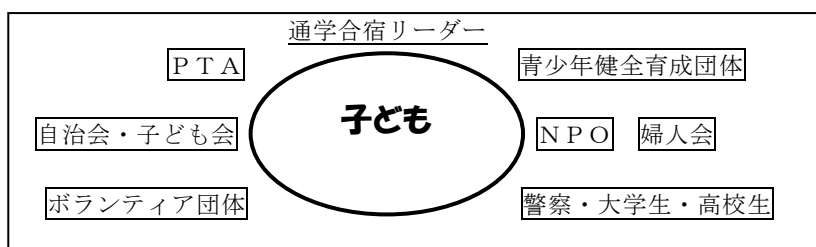
※2 自己肯定感：自分はかけがえのない存在だと思える心の状態

#### ① 実行委員会の組織化

地域の諸団体が横のつながりを持つことで地域の教育力の向上が期待されることから、通学合宿の実施団体は行政の他、地域の諸団体で実行委員会を構成するのが望ましいと考えています。各地区や小学校区においてPTA、青少年健全育成団体、自治会、子ども会、学校評議員などの組織から実行委員会を構成します。



実行委員のまとめやくとして、地域の関係機関を調整する通学合宿リーダーの設置が望まれます。



## ② 通学合宿の実施

婦人会、NPO、ボランティア団体、大学生ボランティア、中・高校生ジュニアリーダー等の協力を得ながら子どもたちの主体的な活動（通学合宿）を支援します。

## ③ 団体・個人のネットワーク化（諸団体の連携強化、新たな地域の教育力の発掘）

1回限りの活動で終わらないように、実行委員会のメンバーを中心にボランティア団体・NPO法人・学生等でネットワークを形成し、地域で子どもを育む環境を整備します。

# 6 通学合宿を効果的に実施するヒント

## （1）主催者へのヒント

### ①必ず守ってもらいたいこと

#### ●アレルギー等健康調査票の確認をします（持病、アレルギー、薬 など）

安全かつ安心が子どもたちのチャレンジにつながります。

#### ●地域とのつながりを

地域とのつながり「絆」の再確認から、地域全体で子どもたちを育てる機運が高まります。

#### ●参加する子どもの保護者は staff には入らない

親を頼らないことで自立心が育まれます。ただし、参加する子どもによっては保護者が同行する必要もあります。

#### ●学校・教員との連携

学校・教員の理解を得られないと実施はできません。学校も“地域のひとつ”であるという認識を共有する必要があります。

#### ●参加誓約書の提出

参加誓約書は必ず提出させます。参加児童、保護者そしてスタッフ（守秘義務の厳守、子ども前での携帯電話の使用禁止等）についても誓約書は必要です。

#### ●保険の加入

保険（傷害・損害）に必ず加入しましょう。参加児童だけでなく、スタッフも全員加入することをお勧めします。

### ②可能な限り守ってもらいたいこと

#### ●ルールは参加する子どもたちで決めます

大人が決めたことをやるのではなく、子どもたち自らがルールを決めることにより、主体性が高まります。

#### ●大人はできるだけ口を出さず、子どもが失敗しても怒りません

子どもたち自らが考え、実行し、解決することにより「生きる力」が育まれます。

す。大人は助言程度に止めます。

● **プログラムは欲張ってはいけません**

当たり前の生活体験プログラムが「通学合宿」です。プログラムが多いと、各プログラムをこなすことに目的が移ってしまいます。

● **工夫したグループ作り**

参加する子どもが孤立しないように配慮します。

(2) 参加する子ども・保護者へのヒント

● **合宿期間中は全日程参加することが条件です**

協調性やコミュニケーション能力を高めるため、合宿期間中は体調不調などにより健康面での不安が生じた場合を除き全日程参加してもらいます。勿論、保護者との面会もできる限り避けます。

● **マンガ、ゲーム、携帯電話、お菓子など持ってこないようにします**

通学合宿は仲間づくりも重要です。コミュニケーションを取るための取組みであるため、マンガやゲームなど活動に必要なものは持ってきてはいけません。

● **あいさつを習慣付ける**

家庭生活はもとより、社会生活においても“あいさつ”は生活の基本です。

● **他人を傷つけない、自分を傷つけない**

他人を傷つけない、自分を傷つけないことは社会生活で求められるルールです。

● **事前打ち合わせには必ず出席させます**

事前打合せにより係や班を決め、それぞれの分担・目標などを自分たちで決めます。本番前から“通学合宿”は始まっており、個々の成長を促しています。

## 7 情報管理の徹底

参加児童、ボランティアスタッフの個人情報については厳重に管理します。

地域の方が実行委員会に参加している場合など、児童や家庭に関する事項や児童の健康に関する情報は知られたくないものが多数含まれています。

絶対に関係者以外に漏れることのないよう特に以下の事項については留意します。

● **子どもの前では携帯電話・スマートフォンは使用しない。**

(子どもが使いたくなくなってしまうことと、通学合宿の様子を安易にネットに投稿してしまうのを防ぐためです。)

● **通学合宿の様子を安易にネット上へ投稿しない。**

● **参加児童と個人的に住所等の情報交換は禁止。**

● **写真・動画を撮影する際には、参加児童及び保護者へ了解を得ること。**

● **通学合宿中に知りえた個人情報は、通学合宿終了後も漏らさない。**



takarajima

## 「地域はみんなの宝島 通学合宿」実地研修実施要領

### (目的)

第1 この要領は、長野県内で実施する「通学合宿」をコーディネートする人材を育成するための実地研修制度を運用するため、必要な事項を定めるものとする。

### (対象者)

第2 通学合宿を実施しようとする者で希望する個人若しくは団体（以下「受講者」という。）。

### (実施方法)

第3 研修を希望する者は、下記連絡先へ電話、電子メール、ファクシミリにより問い合わせるものとする。

#### <通学合宿実地研修申し込み先>

長野県県民文化部次世代サポート課

☎：026-235-7210（直通）

ファクシミリ：026-235-7087

メール：[jisedai@pref.nagano.lg.jp](mailto:jisedai@pref.nagano.lg.jp)

- 2 次世代サポート課（以下「事務局」という。）は受講者から問い合わせがあった場合は、問い合わせ者及び希望する研修受け入れ先と調整の上、実地研修先（以下「研修先」という。）を紹介するものとする。
- 3 前号により研修先が決定した場合、別紙「通学合宿」実地研修申込書（以下「申込書」という。）を電子メール、ファクシミリ等により事務局へ申し込むものとする。
- 4 事務局は、前号により申込書を受領した場合は研修先へ送付するものとする。
- 5 研修先は、前号により申込書を受領した場合は受講者と連絡を取り、研修を受け入れるものとする。
- 6 研修内容は研修先の定めるものとする。

### (経費)

第4 研修に係る費用は受講者の負担とする。



長野県県民文化部次世代サポート課 あて  
ファクシミリ：026-235-7087  
E-mail：jisedai@pref.nagano.lg.jp

(別紙)

## 「通学合宿」実地研修申込書

通学合宿実地研修を以下のとおり申し込みます。

所属団体	
申込み 代表者名	
連絡先	
E-mail	

### 1 実地研修先

実地研修受入先の□へチェックを入れてください。

- 国立信州高遠青少年自然の家
- 上田市教育委員会 川西公民館
- 岡谷市教育委員会 生涯学習活動センター
- 青木村教育委員会
- 特定非営利活動法人グリーンウッド自然体験教育センター
- キャンパーズヴィレッジ自然学校

### 2 実地研修受講者

所 属	氏名 (ふりがな)	性 別	血液型
		男 ・ 女	
		男 ・ 女	
		男 ・ 女	
		男 ・ 女	
		男 ・ 女	

※受講予定者を全て記入してください。

傷害保険加入等に必要のため、全ての項目について記入してください。

### 3 受講費用 (お知らせした金額を記入してください。)

円

### 4 その他 (食物アレルギーやハチアレルギーなど心配な事があれば記入してください。)

こ

地域はみんなの宝島  
こどもがまんなか みんなで「ずく」出し楽しもう！



しあわせ  
信州

通学合宿の手引き資料編



- 5 参加費用 ○○○○円
- 6 募集期日及び申込方法 ○月○日（ ）まで  
参加申込書に必要事項を記入の上、学校へ届けてください。
- 7 保護者向け説明会  
[日時] 平成 年 月 日（ ）  
[場所] ○○公民館
- 8 傷害保険  
参加にあたっては全員傷害保険へ加入していただきます。保険金額は次のとおりです。  
死亡・後遺障害 ○○○万円、入院日額○○○円、通院日額○○○円、  
賠償責任（本人に責がある場合）○○○万円、携行品損害○○万円、  
救済者費用○○万円、臨時費用○○万円
- 9 薬について  
①主催者が投薬を行うことはできかねます。参加者は自分で管理し、飲めるよう通学合宿に参加するまでに保護者の方からお子様に指導していただきますようお願いいたします。  
②他のお子様の薬との取り違えを防ぐためにも必ず、薬一包ずつに記名をお願いいたします。  
③お子様が自分で薬の管理ができ飲める場合でも、必ず参加申込書（別紙）にご記入のうえ申し込んでください。
- 10 体調管理  
体調を崩した場合は、実行委員で緊急搬送が必要と判断した以外は保護者の方に迎えに来ていただきます。

（きりとせん）

## 通学合宿参加申込書

★参加の決意をお子さん自身でお書きください。（保護者の方は意味を説明してあげてください。）

**わたしは仲間と楽しく通学合宿に参加することをここに誓います。**

記入日 年 月 日

小学校 年 組 参加者氏名 (自署)

★平成 年 月 日（ ）～ 月 日（ ）まで開催される通学合宿に○○○○（参加児童名）を参加させます。なお、通学合宿参加中に、上記参加者が負うべき責任については、これを保護者が負います。

平成 年 月 日

(保護者名)

印



〇 〇 〇 通学合宿参加申込書(別紙)

参加児童				
学校名等	小学校 年 組			
ふりがな		血液型	A・B・O・AB・不明 RH ( )	
氏名		身長	身長： c m	
性別	1. 男 2. 女	年齢	歳	体重
生年月日	平成 年 月 日	平熱	度	
保護者・住所連絡先など(緊急時の連絡に必要です。必ずご記入をお願いします。)				
ふりがな		電話番号	( ) -	
保護者氏名		FAX	( ) -	
住所		E-mail		
緊急連絡先 (合宿中に 必ず繋がる 電話番号)	連絡者氏名		連絡先	電話番号
	1		自宅・職場・携帯	( ) -
	2		自宅・職場・携帯	( ) -
	3		自宅・職場・携帯	( ) -
参加児童の健康に関する事項				
アレルギー	アレルギーがある場合は、アレルギーの種類・アレルギーの対応などの詳細をご記入ください。			
	<input type="radio"/> 食物アレルギー <input type="checkbox"/> あり・なし たまご・小麦・エビ(カニ)・貝・大豆・そば・果物 ( ) 乳製品・落花生・その他 ( ) 特記事項			
	<input type="radio"/> ハチアレルギー <input type="checkbox"/> あり・なし <input type="radio"/> エピペン(アドレナリン自己注射薬)の処方 <input type="checkbox"/> あり・なし			
その他	その他健康面について特記事項などあればご記入ください。			
特別な対応が必要な事項				
おねしょ	おねしょについて特別な対応が必要な事項をご記入ください。			
	1. 心配 2. 心配ない 夜間、トイレに起こす必要の有無 あり ( 時頃) ・なし その他			
その他	お子さんのことで特にスタッフに伝えておきたいことをご記入ください。 (服薬の必要がある場合や寝ばけくせ、生理等で特にスタッフが留意する必要がある事項をご記入ください。)			

※緊急連絡先は、日中・夜間を問わず連絡可能な方の電話番号等をご記入ください。  
この調査内容は通学合宿のみに使用し、終了後は参加者へお返します。



# 通学合宿ボランティア募集!

## 通学合宿とは

通学合宿は、子どもたちが一定の期間家族の元から離れ、公民館など、地域の宿泊可能な施設で寝食を共にしながら異年齢の集団による共同生活を送り、学校へ通う取組です。合宿期間中は、炊事や洗濯、掃除など、自分たちの身の回りのことは子どもたち自身が行います。この活動を通して、自己効力感・自己肯定感を高め、コミュニケーション能力や自立心を育みます。

また、協力することや我慢すること、感謝することを子どもたち一人ひとりが身につけることも目的としています。この通学合宿は、地域の皆様にご理解とご協力をいただき、地域全体で実施することで、子どもたち・保護者の方・地域の方との結びつきを更に強めることにもつながります。

この通学合宿の期間中、子どもたちをサポートしていただくボランティアの方を募集します。

期 間：平成 年 月 日 ( ) ~ 月 日 ( )  
(協力いただくのは、1日または、時間単位でも可能です。)

場 所：〇〇〇公民館

## 募集対象

18歳以上で宿泊可能な方。

## 活動内容

子どもたちの生活指導。(登下校の見守り・食事準備と片付けの指導・洗濯や掃除の指導・学習指導・入浴指導・就寝時の指導など)

## 申し込み方法

申込書に記入の上、〇〇〇に提出ください。

## 傷害保険

ボランティアスタッフの方は全員傷害保険に加入していただきます。保険金額は次のとおりです。

死亡・後遺障害 〇〇〇万円、入院日額〇〇〇円、通院日額〇〇〇円、賠償責任(本人に責がある場合)〇〇〇万円、携行品損害〇〇万円、救援者費用〇〇万円、臨時費用〇〇万円

## 謝 礼

謝礼のお支払いはありません。

(1日あたり〇〇〇〇円の謝礼をお支払します。)

## 参加負担金

必要ありません。

(食費、寝具レンタル代、傷害保険料等〇〇〇〇円ご負担いただきます。)

(きりとりせん)

## 通学合宿ボランティア申込書

氏名：	年齢：	才
住所：	電話番号：	
特技・資格：		

## 保護者説明会資料（例）

### 1 趣旨

子どもの社会性は、異年齢の子どもたちや家族以外の地域の大人など様々な人間関係と、多様な物・事との関わりの中で培われます。しかし、現代は核家族化や少子化の進行などにより、様々な人間関係を築くことができなくなってきました。

また、従来、家庭での「役割分担」が与えられていた子どもたちは、子どもの仕事が減少するなど存在感や、自分はここまでできると自信「自己効力感」などを子ども自身が実感しにくくなってきています。

このような現状を踏まえ、子どもたちは異年齢集団での共同生活により、コミュニケーション能力と規範意識の向上を図るとともに、子ども・保護者・地域・学校の連携を深めて、地域の子どもは地域で育む意識をより高めることも目指しています。

### 2 通学合宿とは

子どもたちが一定期間家庭から離れ、公民館・集会所・青少年施設など地域の宿泊可能な施設で寝食を共にしながら集団による共同生活を送り、そこから学校へ通う取組です。合宿中は、炊事や洗濯、掃除など、自分たちの身の回りのことは、子どもたち自身が行います。この活動を通して、基本的な生活習慣と技能を身に付け自立心を高めます。また、コミュニケーション能力やお互いを思いやる心を養うとともに、子どもと保護者がお互いを見つめなおすきっかけとなることを目的としています。

### 3 主催者

（実施主体）〇〇通学合宿実行委員会

### 4 通学合宿の日時・場所

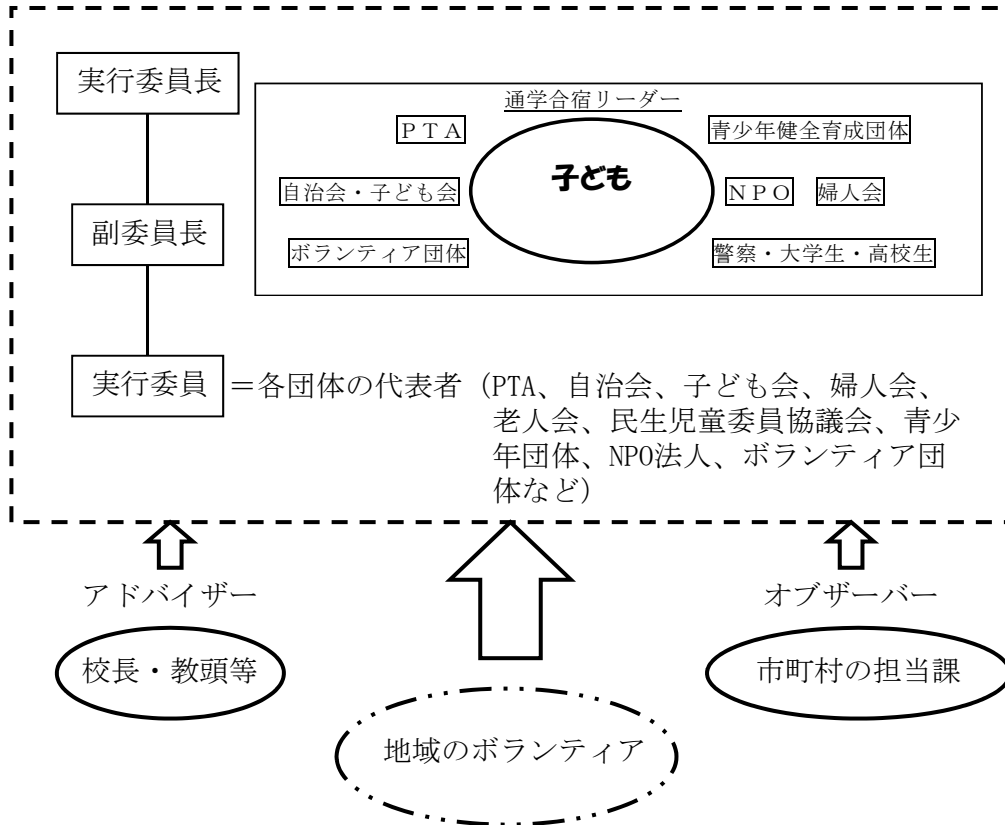
- ・日時 平成 月 日（ ）～ 月 日（ ） 〇泊〇日
- ・場所 〇〇公民館

### 5 通学合宿日程（別紙「通学合宿スケジュール」参照）

### 6 参加費

参加児童から〇〇〇〇円／1人 （食事代・保険料等個人に供するもの）

7 実行委員会の組織図（例）



8 留意いただきたいこと

- ・通学合宿の期間中は、原則として塾、習い事などには参加できませんのでご理解ください。
- ・荷物については、保護者が1日目の〇〇：〇〇～〇〇：〇〇の間に搬入してください。
- ・忘れ物等を届ける場合は、〇〇時までをお願いします。
- ・実施主体である実行委員会では、安全対策に万全を期し、参加中のけが等に際して応急処置はしますが、けが、体調不良等予期せぬ出来事があった場合は、緊急搬送が必要と判断した時以外は深夜でも参加児童健康調査カードに記入いただいた緊急連絡先へ連絡し、保護者に迎えに来ていただきます。緊急搬送された場合には保険証を持参して搬送先医療機関へおいでください。
- ・最終日は、〇〇時頃の解散になっています。宿泊場所まで迎えをお願いします。

9 連絡先

- ・スタッフへの連絡は、下記の電話をお願いします。

宿泊場所	〇〇公民館	TEL
	責任者	長野太郎（123-4567-8901）

つうがくがっしゆく  
通学合宿のしおり



平成 年 月 日( ) ~ 月 日( )

〇〇通学合宿実行委員会

## 1 はじめに

このしおりには、通学合宿の目的、当日、注意してほしいことなどをまとめてあります。合宿までに必ず読んで参加しましょう。

## 2 通学合宿の目的

通学合宿は、地域の公民館などの宿泊施設で〇年生から〇年生が共同で生活体験することにより、普段の生活に必要なことを身につけ、お互いを思いやり協力し合う心を育てることを目的としています。また、通学合宿に協力していただく地域の人たちとの結びつきも強めます。

## 3 通学合宿のときと場所

- ・とき 平成 年 月 日 ( ) ~ 月 日 ( ) 2泊3日
- ・場所 〇〇公民館

## 4 参加者のおきて

通学合宿を仲間との楽しい思い出にするために、次の“おきて”を守ってください。

- ① ゲーム機、携帯電話、テレビ、ラジオ、マンガ、雑誌、お菓子など活動に必要なものは持ってきてはいけません。
- ② 通学合宿の期間中は、塾、習い事、スポーツ少年団活動などには参加できません。
- ③ 自分のことだけでなく、班のメンバーと協力して、食事準備、後片付け、掃除などをします。
- ④ 上の学年の子は、下の学年の子の面倒を見ます。
- ⑤ 朝起きた時、登校時、下校時、寝る時、食事時などのあいさつをきちんとします。

## 5 通学合宿の日程

通学合宿のスケジュール表を見て、スケジュール表に基づいて5分前行動を心がけましょう。

## 6 持ち物

- |  |  |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 水・木・金曜日の学校の準備物      | <input type="checkbox"/> 着替え〇日分              |
| <input type="checkbox"/> タオル3枚               | <input type="checkbox"/> バスタオル2枚             |
| <input type="checkbox"/> パジャマ                | <input type="checkbox"/> 洗面用具（歯ブラシ）          |
| <input type="checkbox"/> ハンカチ3枚              | <input type="checkbox"/> ティッシュ（自分で使うと考えられる量） |
| <input type="checkbox"/> お薬（毎日飲む薬）           | <input type="checkbox"/> エプロン・三角巾・マスク        |
| <input type="checkbox"/> 汚れ物を入れるビニル袋         | <input type="checkbox"/> 保険証のコピー             |
| <input type="checkbox"/> レジ袋3枚以上             | <input type="checkbox"/> ぞうきん                |
| <input type="checkbox"/> その他（体調により必要なものがある人） |  |

- \* 持ち物には名前を書きましょう。
- \* 学校の予定は、○曜日に3日分の連絡をしていただきます。
- \* 荷物については、おうちの方に1日目の○：00～○：00の間に運んでもらってください。
- \* 忘れ物等を届ける場合は、○：00までをお願いします。

7 連絡先・その他

- \* スタッフへの連絡は、下記の電話をお願いします。

宿泊場所

 ○○公民館    Tel  
 責任者 ○○ ○○ (123-4567-8901)

8 通学合宿班別名簿

◎は班長、○は副班長

1 班 ( )							
番号	学年	性別	氏 名	番号	学年	性別	氏 名
①			◎	④			
②			○	⑤			
③				⑥			

2 班 ( )							
番号	学年	性別	氏 名	番号	学年	性別	氏 名
①			◎	④			
②			○	⑤			
③				⑥			

3 班 ( )							
番号	学年	性別	氏 名	番号	学年	性別	氏 名
①			◎	④			
②			○	⑤			
③				⑥			

4 班 ( )							
番号	学年	性別	氏 名	番号	学年	性別	氏 名
①			◎	④			
②			○	⑤			
③				⑥			

## 〇〇〇〇通学合宿実施計画（例）

### 〇〇〇〇通学合宿実行委員会

#### 1 目的

異年齢での集団生活から、自分のことは自分でする自立心や他人を思いやる心、家庭や地域の人達への感謝の心を育てるとともに、コミュニケーション能力を高める。

また、数日間親子離れ離れの生活を通し、親子がお互いを見つめ直し家庭教育を見直す機会とする。

さらに、地域住民がそれぞれの立場で参加することで、子どもたちへの理解を深め、地域での協力体制を整備し、地域の子どもの地域で育む意識を高める。

#### 2 主催

〇〇〇〇通学合宿実行委員会

3 期日 平成20年〇月〇日（水）～〇月〇日（土） 〇泊〇日

4 宿泊場所 〇〇〇〇公民館 電話：  
住所： 緊急時の連絡先：090- (〇〇)

5 参加者 小学4年生～6年生 〇〇名 男子 名、女子 名  
4年生・・・〇名、5年生・・・〇名、6年生・・・〇名

6 協力者 〇〇小学校PTA役員、〇〇子ども会、〇〇婦人会、〇〇ジュニアリーダー、〇〇中学校生徒、〇〇大学生、

7 費用 一人あたり 〇〇〇〇円（食費、シーツ代、保険料など）

8 約束ごと

- ・ 班長（高学年）が中心となり、勉強・遊び・掃除・食事の配膳・片付けなど、グループで協力してやる
- ・ 学年の違う子や地域の大人たちとの交流を深める
- ・ テレビ・マンガ・お菓子・携帯電話のない生活をする
- ・ 合宿終了后感想文を書く

#### 9 参加者の持ち物

〇日分（〇泊〇日の場合）の着替え（下着・体操服・パジャマなど）

水筒、お椀、はし、学校の持ち物、常備薬など 別紙「持ち物点検表」参照

#### 10 実行委員会で準備するもの

参加児童・保護者名簿、役員・ボランティア名簿、緊急連絡先一覧、健康調査票  
救急用具一式、懐中電灯、ゴミ袋、掃除用具一式、調理道具一式、食器類一式、  
文具一式 など

## 11 親子説明会の開催

○月○日（ ）PM ～ 2時間程度（場所：○○○○）

「○○○○通学合宿のしおり」をもとに通学合宿親子説明会を開催しますので、参加承諾書・健康調査票、自己紹介カード、参加費を持参してください。

## 12 運営組織

(1) 役割分担 役割分担表により責任をもって指導・管理すること

(◎印は主担当、○印は副担当)

実行委員長	
副委員長	
通学合宿リーダー	
庶務・会計担当	◎ ○
食事担当	◎ ○
記録担当	◎ ○
生活指導担当	◎ ○
物品管理担当	◎ ○

\*役員（実行委員）：○○名 \*ボランティア：○○名（名簿は別記）

(2) 各担当の仕事内容（主なもの）

実行委員長	実行委員会・打ち合わせ会の司会進行、運営面全体の推進
副委員長	実行委員長の補佐
通学合宿リーダー	プログラムの企画、リスクマネジメント総括、宿泊施設、学校など関係機関との連絡調整
庶務・会計担当	日程表、ボランティア当番表の作成、開校式・閉校式の司会進行 会費の集金、現金の管理、全体事業費の管理、会計簿への記録
食事担当	献立の作成、給食業者との連絡、食事当番（ボランティア）の協力依頼 配膳・片付け指導、ゴミ処理の確認
記録担当	実行委員会・打合せ会での議事記録、写真撮影、各日の活動記録 参加者への記念写真の配布
生活指導担当	子どもたちの生活指導、荷物整理・宿泊施設での生活・健康管理 就寝時の様子を観察・入浴指導
物品管理担当	必要な物品の購入・納品・管理、生活に必要な備品類の確認・手配



takarajima



スケジュール

○月○日（木）～△月△日（土）○泊○日

	○月○日（木）	○月○日（金）	○月○日（土）
スケジュール	朝		
	学校生活	学校生活	
	夕方		

**【通学合宿で気を付けること】**

<食事>

- ・ 買出し係・調理係・配膳係など役割分担は事前説明会で決めます。
- ・ 食事時間は 30 分程度で全員そろって食べます。
- ・ 使用した食器（水筒・お椀・はし等）は自分で洗います。

<生活全般>

- ・ 朝、登校時、下校時、就寝時などのあいさつをします。
- ・ 荷物の整理整頓をして部屋をきれいにしておきます。
- ・ 高学年の子どもは低学年の子どもの面倒をみます。
- ・ 班（学年縦割り）で仲良く・協力します。

<入浴>

- ・ 時間・マナーを守って他の人に迷惑をかけません。
- ・ 家庭でも入浴のルールを指導しておいてもらいます。

<就寝>

- ・ 寝る前までに次の日の準備をします。
- ・ 翌日の学校の授業に影響が出ないように早めに就寝します（PM10:00 頃までに）。

**【健康管理に関する留意事項】**

- ・ 体調がすぐれないときは早めにスタッフに連絡します。  
（スタッフは常に子どもの体調管理に注意にします）
- ・ 事前に参加者個人の見健康状態及び健康上の注意事項を保護者から聞いておきます。

実施団体：○○○○実行委員会（ ）  
協力団体：

## 指導者（スタッフ）の皆様へ

### 1 取組趣旨の共通理解

- 子どもたちが主体的に行動し、自己効力感・自己肯定感を高め、コミュニケーション能力を育むことをねらいとするものである。
- “地域の子どもは地域で育む”といった考え方のもと実施するものである。
- 地域の大人達のネットワークを広げる場でもある。

### 2 子どもへの関わり方

- 基本的なことは教え、その後は子どもを信頼して見守りながら任せる【過干渉は×】
- 子どもたちに役割を与え、やり遂げる機会を与える【自己効力感、達成感】
- 子どもたちの自発的な行動は可能な限り抑制せず見守る【自主性の尊重】
- 子どもからのわがままな要求を容易に受容しない【忍耐力】
- ルールに反する行動や危険な行動をしたときには、理由を説明しながらきちんと叱る【規範意識】
- がんばった子どもは褒める【満足感・充実感】

### 3 安全管理

参加する子どもについて「健康調査票」により健康状態などを把握し、体調管理に務める。

活動中に気になったことについては、細かなことでもスタッフ間で打ち合わせをして情報共有に努める。特に次の事項については留意をする。

#### ●登下校時の交通安全・連れ去りの防止

集団登下校・付添い人（複数人）の配置、あいさつ・声掛け運動、外部からの不審者侵入への対応、不審者情報等の収集、スタッフの判別（名札等）警察等への事前告知

#### ●調理時の事故・けが防止

包丁の扱い、火・ガスの扱いなどの事前講習の実施、ボランティアの配置、食中毒への対処

#### ●自由時間での事故防止

活動場所の限定、安全ボランティアの配置、危険物の持ち込み禁止

#### ●就寝時の注意

睡眠時間の確保、低学年の子どもへの対応、夜尿・寝ぼけくせの対応、子どもと一緒に寝る

#### ●健康管理上の留意事項

参加者の健康状態（持病・アレルギー）の事前把握、睡眠時間の確保、女子児童への配慮

### 4 特別に留意すること

#### ●女子児童の体の変調への対応

環境が変わると、初経が訪れたり体に変調が現れることがあります。その際は即時保護者へ連絡します。生理用品は必ず準備しておくとともに、女性スタッフが不在になることがないように気をつけます。

#### ●夜尿への対応

事前に保護者と打ち合わせをし、夜間の起こし方、失敗してしまった時の対処の仕方等を確認しておきましょう。もし、失敗しても大丈夫と安心させて参加させてください。万が一失敗した時は、他の子が起きる前に着替える等の配慮をします。

●寝ぼけくせへの対応

健康調査票などに「寝ぼけくせ」に関する記載がある場合には、事前に保護者と連絡を取り、対応方法を確認しておきます。

●ホームシックになった子どもへの対応

ちょっとしたきっかけで「お家に帰りたい」と泣き出す子もいます。傍らに付き添い一緒にいるだけで信頼できる大人の存在に気づき安心します。翌日からは友だちの中に帰ることがほとんどです。

●集団での入浴を嫌がる子

体にアザがある等で友達と一緒に入浴することに抵抗がある子もいます。なぜ一緒に入浴できないか、丁寧に聞くことが重要です。

## 5 情報管理の徹底

参加児童、ボランティアスタッフの個人情報については厳重に管理します。

地域の方が実行委員会に参加している場合など、児童や家庭に関する事項や児童の健康に関する情報は知られたくないものが多数含まれています。

絶対に関係者以外に漏れることのないよう特に以下の事項については留意します。皆さんの仕事は“子どもたちへの支援”です。

●子どもの前では携帯電話・スマートフォンは使用しない。

(子どもが使いたくなくなってしまうことと、通学合宿の様子を安易にネットに投稿してしまうのを防ぐためです。)

●通学合宿の様子を安易にネット上へ投稿しない。

●参加児童と個人的に住所等の情報交換は禁止。

●写真・動画を撮影する際には、参加児童及び保護者へ了解を得ること。

～「通学合宿成功のカギは、スタッフと子ども、保護者そして地域の方々との信頼関係づくりです～

【スタッフ心得】

- 1 子どもたちへの支援がお仕事です！
- 2 子どもにはできるだけ声を掛け、笑顔で接しましょう！
- 3 保護者や地域の方々にも“あいさつ”・“笑顔”が基本です！
- 4 “通学合宿”をきっかけに集まった仲間との交流を深めましょう！
- 5 子どもが主役です。宿泊施設・活動場所での飲酒・喫煙はできません！
- 6 地域のルールやマナーを尊重しましょう！
- 7 情報管理を徹底し個人情報の流出に注意しましょう！





こ

地域はみんなの宝島

こどもがまんなか みんなで「ずく」出し楽しもう！



しあわせ  
信州

通学合宿安全管理の手引き

# 1 安全・健康管理

子どもたちの安全・健康については、傷害の防止及び疾病の予防から、傷害や急病の発生時の対応まで広い分野に及びます。

傷害の防止にはまず安全管理が重要となります。事故の要因となる環境や子どもたちの危険な行動を早期に発見し、それらの危険を速やかに除去しますが、万が一傷害等が発生した場合には適切な応急手当や安全措置が必要です。併せて、安全指導を行い、子どもたち自身が安全や危険を理解し、適切な行動をとれるようにすることも必要です。また、疾病対策では、既往疾患、健康状態の把握、当日の気候条件などを考慮した活動など幅広い対応が求められます。

子どもたちの年齢や個々の心身の発育、発達の状態等により、危険性の状況が異なる場合があることにも留意します。

## (1) 予防対策

### ①安全管理

#### ○事前点検

プログラム内容・場所・設備類等別に安全点検表や観察ポイントを示した一覧を作成してスタッフの共通理解を図り、必要に応じて安全点検を行います。

#### ○点検の事後措置

安全点検により不具合が発見され、危険と判断された場合は速やかに使用を停止し、立ち入り禁止などの安全を確保した上で、施設の管理者に対して報告し、適切な措置を求めます。

安全点検はプログラムの計画時、当日の使用前、使用後に実施するのが望ましいです。

#### ○スタッフ数の決定及び情報共有

事前にプログラム内容や注意点などについてスタッフ間で情報を共有することが重要です。スタッフの配置人数については、活動内容・場所・時間帯等を考慮し決定します。

#### ○応急手当用品(救急箱)の準備

応急手当に必要な用品を救急箱に用意します。

また、傷害発生や急病への対応についても事前に施設管理者と話し合いをし、協力を得られるような体制づくりが必要です。

#### ○AEDの設置場所の確認

宿泊施設にAEDが備え付けてあるか必ず確認します。

宿泊施設に備え付けられていない場合は、最寄りの設置場所を確認し、併せて緊急時の対応を確認しておきます。

### ②健康管理

通学合宿では一定期間、子どもたちが親元から離れ、宿泊施設での共同生活をしながら通学する取組です。楽しく安全に実施するためにも、傷害の防止と参加する子ども一人ひとりの健康管理について留意します。

#### ○子どもの健康状態についての配慮

保護者からの連絡カード(健康調査票)等による連絡や本人からの申し出によって事前に体調を把握し、当日の健康状態について管理します。スタッフは大学生や地域の皆さんのボランティアがほとんどのため、体調不良の場合は参加を見送らせます。また、合宿中に体調

不良となった場合は原則保護者に迎えに来てもらいますが、やむを得ず医療機関を受診した場合の緊急時の対応として、保険証の写しを持参させるとよいでしょう。ただし、後日保険証を必ず医療機関へ提示する必要があります。

子どもたちには、身体の調子が悪い場合は我慢せず申し出るように指導します。

#### ○子どもの疾患についての情報共有と配慮

通学合宿に参加する子どもたちの健康状態を、個人情報に配慮しつつ、事前に十分把握しておく必要があります。特に、アレルギー性疾患、気管支喘息などの疾患を持つ子どもたちは、疾患の程度や治療段階において活動に制限がある場合があるので、必要に応じて保護者と連絡を取り情報提供を求めるなどして、スタッフ間で情報共有しておきます。

#### ○投薬についての注意

投薬の必要な児童については本人しか対応できません。予め家庭で練習し、通学合宿に参加するよう伝える必要があります。

### ③事故等発生時の連絡体制

#### ○活動内容についての保護者への周知

参加する児童と保護者に取組の目的や意義・内容について、事前説明会を開催し、理解を得た上で参加してもらいます。通学合宿の実施にあたっては、安全等について十分に配慮して実施しても、傷害等の発生の可能性はゼロではなく、傷害発生時の責任関係は発生した事故の内容によって異なることや、加入する保険制度についても事前に理解してもらうことが必要です。

#### ○医療機関の連絡先

医療機関の所在地、診療科、診療時間帯、電話番号等を事前に確認し、一覧表を作成します。休日にプログラムを実施する場合は、休日当番医等も調べておくことが必要です。

#### ○保護者への連絡体制

緊急時は原則保護者に迎えに来てもらうこととなりますので、保護者への連絡は必ず繋がるよう複数の連絡先を参加申込の際に必ず取得し、いつでも連絡がとれるようにしておきます。

なお、緊急連絡先、健康状態等に関する情報は個人情報です。他の目的に使用しないことは当然ですが、保護者へその旨の説明しておきます。

(※健康カードなどは事後必要がなくなった時点で確実に破棄するか保護者へ返却します)

### ④スタッフ間の情報共有

実施する通学合宿のプログラム内容の理解と安全・危険、使用する設備についての安全点検、子どもの基礎疾患や当日の体調の理解とそれらを踏まえた活動のあり方、子どもの行動特性の理解、活動に関する保護者への説明、集団生活における感染症・熱中症・食中毒についての理解と対策、道具の安全な使用方法、学校との連携、スタッフと子どもや保護者との信頼関係の確立など事前にスタッフの打ち合わせを実施し情報を共有します。

### ⑤子どもへの指導

#### ○道具等の安全な使い方

刃物を使用したり、火気の扱い方など危険を伴うプログラムには、危険性について説明するとともに、子どもたちの前で必ず手本を示します。また、全体指導とは別に発達段階に応じて適宜個別に指導することもあります。

(子どもたちが学校の調理実習で包丁を使用するのは5年生からです。)

#### ○安全な行動への配慮

活動するに当たって何が危険かを自ら考え、危険を回避して行動することなど、適宜指導してください。

### (2) 発生時の対処

#### ①組織・連絡体制

##### ○急病・傷害発生時の役割分担と対処

迅速な対応が行えるように、予めスタッフ間で共通理解を持ち、体制を整えます。特に緊急搬送用の自動車は最低でも1台用意します。

傷害発生時は、直ちに応急手当を実施すると同時に他のスタッフに連絡を取ります。スタッフの中には、大出血、呼吸停止、心臓停止などの重篤な種々の状況に対する応急手当の知識を有する者も求められます。

さらに、けがの状態や程度により医療機関を受診する必要性の有無を判断します。必要ならば、応急手当を始めるとともに医療機関へ搬送します。けがの程度が重大な場合には、躊躇せず救急車を要請します。負傷者を搬送した後は、他のスタッフに依頼し、残った子どもたちへの対応に配慮するとともに、搬送先医療機関の所在地や連絡先についても把握し、保護者へも連絡します。

医療機関を受診しないごく軽傷の場合でも、保護者には必ず報告してください。

(★出血が認められる場合は、血液には決して素手で触れないように注意！)

##### ○状況の確認と記録・保護者への連絡

事故等が発生した場合には、発生時刻、発生状況、応急手当実施の有無とその内容を時系列により記録します。また、保護者が医療機関に同行しなかった場合は、受診先の医療機関名、けがの程度の説明や処置内容、帰宅後の処置の必要性の有無とその方法等を保護者に報告します。同時に事故発生時の状況を正確に実施機関に報告し、事故記録簿を整理しておくことが必要です。

#### ②施設・設備

##### ○事故原因となった設備類の点検・修理

施設・設備等で傷害が発生した場合は、直ちに使用を停止し、必要ならば立ち入り禁止の措置を取ります。また、事故発生の原因が明らかになるまでは傷害の原因となった設備類は使用せず、破損した設備類については事故発生時の状況等を詳細に記録し、施設管理者等に報告します。

### (3) 保険への加入

安全に十分配慮して通学合宿を実施しても、様々な疾病や傷害が発生する可能性は否定できません。また、宿泊施設やその周辺において、子どもたちが事故・事件に遭遇する危険性もありますので、万が一の場合に備えて各種保険には必ず加入します。

保険制度(保険の種類等)については、保険会社に事業概要(実施期間・宿泊場所・参加人数・活動内容等)を十分に説明した上で最も適したものに加入します。

一般的には参加する子ども・ボランティアの傷害事故に対する補償、施設・物品等を損傷した場合の賠償責任に対する補償が考えられます。



この他に、主催者としての責任を問われることも想定されますので、行事主催者の賠償責任に対する補償についても考えておく必要があります。

いずれにしても、事前に保険会社と相談して加入する保険の種類等を決めておきます。

参加者募集にあたっては、取組の目的・意義・内容について、保護者には事前説明会により説明し、理解を得た上で参加してもらいます。その際には、傷害発生時の責任関係は発生した事故の内容によって異なることや加入する保険制度についても必ず説明し、理解してもらうことが必要です。

【参考：全国子ども会安全共済会から抜粋】

平成 26 年度版

全国子ども会安全共済会に加入するには

- ・ご契約いただいた市町村地区子ども会連合組織に、単位子ども会ごとまとめてお申し込みください。
- ・単位子ども会、市町村地区子ども会連合組織に所属する就学前3年以上の者が次の加入時費用を納める必要があります。

☆加入時費用(1人)・・・100 円(10 月 1 日以降加入の場合) 90 円)

(内訳) 全国子ども会安全共済掛金・・・50 円(10 月 1 日以降加入の場合・・・90 円) } 70 円(10 月 1 日以降加入の場合 60 円  
 全国子ども会連合会運営費・・・20 円(子ども会賠償責任保険料を含む)  
 長野県子ども会育成連絡協議会運営費・・・30 円  
 (安全教育、共済金請求書作成、事前審査、名簿管理等の費用として)

全国子ども会安全共済会 共済金額

死亡共済金	600 万円
後遺障害共済金	後遺障害の程度に応じて 7 万円～600 万円
医療共済金	健康保険等を適用した医療費総額の 30 パーセント (支払限度額 50 万円・医療共済金の額が 1,000 円以下の場合はお支払出来ません)

子ども会賠償責任保険 支払限度額・免責金額

身体賠償	1 名につき	1 億円	免責金額 0 円
	1 事故につき	5 億円	
財物賠償	1 事故につき	200 万円	免責金額 1,000 円



takarajima

加入対象者	補償対象となる団体活動	年間掛金 (1人当たり)	傷害保険金額				賠償責任保険支払 限度額
			死 亡	後遺障害 (最高)	入 院 (1日につき)	通 院 (1日につき)	
子ども (中学生以下：特別支援学校高等部の生徒を含む。)	スポーツ活動、文化・ボランティア・地域活動	800円	2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円	身体・財物賠償 合算1事故5億円 ただし、身体賠償は1人1億円
高校生以上 (65歳以上の方も加入できます。)	文化・ボランティア・地域活動・団体員の送迎、応援、準備、片付け	800円	2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円	
	スポーツ活動、スポーツ活動の指導・審判	1,850円	2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円	
	子どもへのスポーツ活動の指導・審判	1,300円	1,000万円	1,500万円	2,500円	1,000円	
65歳以上	スポーツ活動	1,000円	600万円	900万円	1,800円	1,000円	

※スポーツ活動にはキャンプその他の野外活動を含みます。

## 2 施設周辺における危機管理

宿泊施設から学校までの経路等では、交通事故や転落の一般的事故の他、誘拐、暴行、性犯罪等の可能性がありますし、屋外での活動時においても同様です。スタッフは、発生が想定される場所、事件・事故の状況等を考慮しながら、適切かつ柔軟に対応することが必要です。なお、不審者侵入対策については、「4 不審者侵入対策」において記述します。

### (1) 防止対策

#### ①施設周辺における対策

##### ○危険箇所等の事前確認

宿泊施設から学校までの経路において、交通事故や一般的事故、上記の犯罪等が実際に発生した箇所や発生する可能性のある箇所の情報を可能な限り収集し、現地を確認しておきます。

##### ○環境の改善等

確認した結果危険箇所等を改善する必要がある場合は、必要に応じて危険の除去や環境の改善を行ったり、対策の実施を関係機関に要請するなどします。

#### ②組織及び連絡体制

##### ○実施団体

施設周辺の点検、関係機関への連絡、子どもへの指導等の役割分担を明確にします。

##### ○警察、防犯団体

交通事故や犯罪被害防止等のために、危険箇所・犯罪発生等に関する情報収集、危

険箇所の環境改善、安全パトロールの実施等について、必要に応じて連携を図ります。

○学校・市町村教育委員会

事故や犯罪被害の防止のため、宿泊施設と学校間の経路等の危険箇所に関する情報提供等について連携することが望まれます。

○保護者

登下校時における事故や犯罪被害等の情報提供、通学合宿実施時の登下校の付き添いへの協力、家庭での安全指導の実施等について連携します。

○地域

事故や犯罪被害等防止のため、地域における情報交換や対策実施等について、必要に応じて連携を図ります。

登下校時には、子どもたちの集団登下校の際にスタッフの付き添いや声かけなど、子どもたちを見守り、地域で子どもを育てる機運を高めます。

③子どもへの指導

施設近隣での交通事故や一般的事故、犯罪被害等の発生箇所、種類、発生状況、可能性のある危険、事故や犯罪被害の防止方法(巻き込まれそうになった場合の助けの求め方等を含む)などについて、適宜、具体的に指導します。

## (2) 事故・事件等発生時の対処

①組織及び連絡体制

スタッフ間で役割分担や連絡体制を事前に確認し、事故・事件発生時には速やかに対処できるようにしておきます。

○警察、消防署

警察、消防等からは、事故や事件の経緯や状況、子どもたちの負傷の程度や搬送先等の情報を入手します。

○学校

保護者への連絡、事故等発生後の緊急対策等について連携を図ります。

○教育委員会

事故や事件の経緯、子どもたちの負傷の程度や搬送先等を連絡するとともに、当該スタッフの取るべき諸対策等について助言を受けてください。また、必要な場合には支援の要請等を行います。

○保護者

負傷した子どもの保護者には、事故や事件の経緯、負傷の程度や搬送先等を連絡します。事故・事件によっては、他の保護者に対して子どもの受け渡しの連絡、支援の要請等を行います。

②子どもへの指導

交通事故や一般的事故、犯罪被害等が発生した場合での、警察や消防への通報の仕方、保護者や施設への報告、犯罪に遭った・見た際の「子どもを守る安心の家」などへの助けの求め方等を具体的に指導します。

## 3 火災・地震等の火害対策

地域・学校の状況に即した災害対策を講じる必要があります。災害発生やそれによる被害を防止するためには、施設・設備の安全点検など日常の適切な防災活動が重要です。災害発生時において、被害を最小限に止めるための適切かつ迅速な対応が必要となります。

## (1) 防止対策

あらかじめ施設・設備等の下見を行い、予想される災害への対応としての組織づくりや連絡体制の整備、対応策の検討などにより防止策を講じます。

### ①組織及び連絡体制

#### ○注意報、警報発令時の対応

注意報、警報発令時には活動を中止するなど対応方針をあらかじめ明確にしておきます。

#### ○消防署等関係機関・団体との連携

事前に消防署等の関係機関・団体と連絡をとり、必要に応じて助言を受けることが望まれます。

#### ○保護者や関係者等との連絡体制

注意報、警報発令時や災害発生時に、保護者・関係者等へ迅速に連絡できるように、連絡網を作成しておきます。

### ②対応方策の検討

#### ○地震災害、気象災害、火災時等における対応の検討

宿泊施設の防災行動計画等をもとに、災害発生時の対応・連絡体制などを整備します。

### ③子どもへの指導

#### ○子どもたちの活動にともなう防災の指導内容

火災防止や避難行動などの防災に関するプログラムを盛り込むなど配慮します。

### ④施設・設備

#### ○避難経路の確保

廊下や階段などには、避難行動を妨げる物品を置かない。

#### ○防災設備の確認

消火器、消火栓等の設備・備品の設置場所及び設置内容について事前に確認する。

#### ○応急手当に用いる薬品等の点検

災害発生時の負傷等の応急手当に必要な薬品等を準備するとともに、AEDの設置場所等を確認する。

## (2) 発生時の対処

子どもたちと指導者等の安全確保を最優先に避難し、負傷者がいる場合は応急処置を施すとともに、保護者・関係諸機関への連絡も速やかに行います。

### ①組織及び連絡体制

#### ○災害発生時の役割分担

防災責任者を決め役割分担を明確にしておきます。

#### ○避難場所と避難方法

地震直後に取り最善の行動は、「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」場所への移動(避難)です。活動に応じた避難場所と適切な避難方法を明確にし、あらかじめ関係者に周知しておきます。

#### ○災害情報の収集

被害状況を速やかに確認し、防災責任者へ情報を集約するとともに学校等へ連絡します。

#### ○保護者や関係者への連絡

緊急連絡網により早急に保護者や関係者への連絡を取ります。なお保護者等への子どもの引渡し方法をあらかじめ双方で確認しておきます。

### ②子どもへの指導

#### ○地震発生時の落下物等への注意

地震発生直後には壁や看板等の落下、窓ガラスの破損等によって負傷する危険性があるため、「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」場所への移動(避難)などの指導を行います。

○火災発生時の避難方法

建物火災発生時には、あわてない、引き返さない、煙を吸わないなど安全に避難誘導します。

○災害時の帰宅途上の注意

大雨の後ではしばらくしてから川が増水するため帰宅する際の指導をします。地震では塀などの倒壊や建物からの落下物について注意を払うように指導します。

③施設・設備

○就寝場所の環境

就寝する場所が、地震発生時に「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」環境にあることを予め確認します。

○二次災害の防止

地震発生時に調理などで火気を用いている場合にはやけどに注意し、ガス漏れや漏電等からの火災発生など、二次災害を防ぎます。

○火災発生時での注意

火災が発生した場合には子どもたちを避難誘導し、初期消火を行います。

## 4 不審者侵入対策

不審者の侵入は重大な事件につながる恐れもあるため、十分な対策を取っておく必要があります。

### (1) 侵入防止

不審者を施設へ入れない、施設周辺に近づけないことが、不審者侵入防止の基本です。また、施設内における防犯上の空間の弱点と緊急時の連絡体制を把握します。

①組織及び連絡体制

○巡回、声かけ、情報把握等

施設内、施設周辺の巡回等で部外者を発見した場合は声かけを行うなど、施設周辺における不審者に関する情報を把握するよう努め、関係者において情報を共有します。

○地域における犯罪発生状況の把握

施設周辺での犯罪発生状況や不審者情報の入手方法を確認しておきます。

○防止策の方針

宿泊している建物の状況やスタッフの人数に応じた、不審者侵入防止策を検討します。

また、連れ去り防止のため、スタッフと部外者を区別するための名札や腕章を着用するなどの方策も併せて実施します。

○役割分担

施設内・施設周辺のパトロール、部外者への対応について、あらかじめ検討しておきます。

②子どもへの指導

○施設内、施設周辺における危険箇所の把握

人目につかない場所など犯罪に遭いやすいと考えられる箇所を把握させます。

○施設内における活動の仕方

不審者を見かけたり、不審者に遭遇した場合の対処方法を指導します。

## (2) 発生時の対処

### ○施設周辺で不審者が出没したとの情報が入った場合の対処

警察等と連絡を取り、できる限り正確な情報を入手するよう努めます。そのためには、あらかじめ警察署等へ協力を依頼しておくことが望めます。不審者情報の内容によっては、防犯体制を確認し、取組継続の可否について検討します。

### ○不審者が侵入した場合

不審者が侵入した場合には、まず、子どもの安全を最優先し、自らの安全も確保しつつ可能な限り複数で対応します。

不審者に対し退去するよう説得しても応じないときは、他のスタッフに連絡して協力を求めつつ、子どもから隔離できる場所(応接室等)に誘導し、同時に110番通報、他のスタッフや関係機関への緊急連絡などを行います。

不審者を隔離できず、暴力行為をどうはたらく等のときには、大声、防犯ベル等で応援を求めるとともに、近くにあるイスなどで防御しながら不審者の移動を阻止するよう努めます。併せて子どもたちの動向を掌握し、避難させたり安全な場所で待機させます。なお、子どもたちの安全確認を迅速かつ確実にを行うため、参加者を常時把握しておくことも必要です。

負傷者が出たときには、応急手当に着手するとともに、他の者に119番通報させます。

事後においては、窓口を一本化して情報の把握・整理を行うとともに、状況、対応等を時間を含めて客観的に記録しておきます。また、速やかに保護者等へ連絡・説明を行います。

(★イス等での防御方法は、最寄りの警察署に指導を受けてください。)

### ① 組織及び連絡体制

あらかじめ、不審者侵入時におけるスタッフの役割分担を明らかにしておくとともに、一部のスタッフが不在であっても、全体としての活動に支障をきたさないように配慮します。また、緊急時の対応手順、役割分担、連絡先等を一覧にして掲示しておきます。

#### ○警察との連絡体制

警察に対し、宿泊施設の場所・事業概要・連絡窓口等をあらかじめ連絡しておきます。

#### ○保護者との連絡体制

緊急時の連絡先リストを作成しておきます。

#### ○教育委員会等との連絡体制

緊急時の連絡窓口を確認しておきます。

### ② 子どもへの指導

子どもに対しては、大声を出す・逃げるなどつさの行動の仕方について理解させておきます。

## 5 衛生管理

通学合宿では子どもたちが集団で喫食するため、食中毒が発生すると大きな事故になることもあります。施設・設備を清潔に保ち、日常生活における食中毒等の予防に必要な用便後や食事前等の手洗いの励行等を指導します。

### (1) 予防対策

#### ① 衛生管理

##### ○調理施設・設備の清潔、衛生の保持

ア 施設・設備は常に清潔に保ち衛生的に使用します。また、冷蔵庫、冷凍庫、食品保管庫の内部及び食品保管場所も、常に整理整頓し、衛生的に保持するようにします。

イ 調理場の給水、排水、採光、換気等の状態を適正に保ちます。

ウ 食器具、容器、調理機械器具は、使用後確実に洗浄し乾燥させ、衛生的に保管します。

エ 調理室には、調理作業に不必要な物品等を置かないようにします。

オ 調理台等、使用前にアルコール消毒が必要なものは、消毒を行います(水分が残っているとアルコールの殺菌能力が低下するので、清潔にした調理台や調理器具等の水分を除去してからアルコールをスプレーします)。

○子どもの健康状態の把握、患者の早期発見

ア 感染症・食中毒の早期発見に努め、健康観察等により疑わしい症状がある場合は、医師等の診察を受けさせます。異常があった場合には、学校、保健所等に連絡し、その指導により必要な措置を講じます。

イ 体調不良等の場合には、速やかに申し出るように子どもたちに徹底させます。

○食品衛生について最新の情報収集

食中毒防止のためには、原因物質の性質や原因となりやすい食材等最新情報を収集し、発生事例から防止策を研究し、確実な対策を講じることが大切です。

②組織・連絡体制

○医療機関の連絡先

医療機関の所在地、診療科、診療時間帯、電話番号等を事前に確認し、一覧表を作成しておきます。

○保護者への連絡体制

緊急時の保護者への連絡先について、必ず連絡がとれる連絡先を参加申込の際に必ず取得し、いつでも連絡がとれるようにしておきます。

なお、緊急連絡先、健康状態等に関する情報は個人情報です。他の目的に使用しないことは当然ですが、保護者へその旨の説明をしておきます。

(＊健康カードなどは事後必要がなくなった時点で確実に破棄するか保護者へ返却します)

③子どもへの指導

○清潔な環境づくり

清潔な環境で食事の準備や食事ができるように次の点を指導します。

ア 食事施設や設備は常に整理整頓し、清潔で衛生的にする。

イ 窓を開けて、部屋の空気を入れ換える。(風雨の強い日は注意)

ウ ゴミを拾ってテーブル(机)のまわりを清潔にする。

エ テーブル(机)を台ふきで拭く。

○正しい手洗いの徹底

O157、ノロウイルス等の食中毒菌等は少量で発症するので、正しい手洗いの徹底が予防のための重要なポイントとなります。鼻かみ、用便後、食事前は必ず、石鹸と流水を使用して正しく手を洗い、清潔なハンカチ等で手を拭きます。また、洗った手は再度汚さないようにします。

○健康状態、衛生的な身支度等の確認

調理・食事を介した感染症や食中毒の予防のために、子どもやスタッフ・ボランティア自身の健康状態を次の項目で確認します。

ア 下痢をしている者はいないか。

イ 発熱、腹痛、嘔吐の症状がある者はいないか。

ウ 衛生的な服装をしているか。(帽子、エプロン、マスク等)

エ 手洗いは完全か。

○食器・食品の衛生的な取扱

食器や食品の取扱方法など、食中毒の予防のために必要な食事準備等を身に付けさせるために、次の点を指導します。

ア 安全・衛生に気をつけて運ぶ。

イ 床に直接、食器などを置かない。

ウ 常に清潔な手指で、配食用器具を使い配膳を行う。

エ 配膳台の上は常に清潔にしておく。

## (2) 発生時の対処

### ①組織及び連絡体制

#### ○発生時の役割分担

食中毒等の症状が発生した場合には、迅速な対応が行えるようにスタッフで共通理解を持ち、体制を整えます。下痢等(上記の健康状態のア、イに該当)を起こしている場合は、食事の準備には関わらせないようにし、保護者に迎えに来てもらいます。

さらに、少しでも食中毒が疑われる子どもやスタッフは、すぐさま病院に直行させます。

食中毒は時に死に至る病気であることを認識して、軽視せず、早めに受診させるようにします。搬送した後は、他のスタッフに依頼し、残った子どもたちへの対応に配慮するとともに、搬送先医療機関の所在地や連絡先についても把握し、保護者へ連絡します。

#### ○状況の把握と記録

食中毒等の症状の発生時には、発生時刻、発生状況を時系列により記録します。保護者が、医療機関に同行できなかった場合は、受診先の医療機関名、状況説明や処置内容、帰宅後の処置の必要性の有無とその方法等を保護者に報告すると同時に、発生時の状況を実施機関・保健所など関係機関にできるだけ速やかにかつ正確に報告し、指示を求めてください。その際、プライバシー保護に配慮することが大切です。食中毒の発生原因については、現場の保存と食品の拡散防止に努め、関係機関に指示を求め、その原因の除去、予防に努めます。

また、発生状況により取組継続の可否についての検討が必要です。

### ②施設・設備・食事の保存

#### ○事故原因となった設備類の点検・修理

施設・設備により食中毒等の症状が発生した場合は、直ちに使用を停止し、必要に応じて立ち入りを制限します。また、発生の要因が明らかになるまでは原因となる可能性のある設備類は使用しません。

#### ○食べた食事の保存

万一食中毒が発生した場合、原因を特定するために食事を保存しておくといでしょう。調理後の食事を約50g以上ジッパー付のポリ袋に入れ、日付と時間を記入して冷凍庫で保存します。

## 6 危険生物・アレルギーへの対応

自然環境に恵まれた長野県は、通学合宿でのプログラムに野外体験活動を取り入れることが多いかと思われまます。

自然は子どもたちに様々な体験を提供してくれる反面、危険な動植物との接触やそれらに起因するアレルギー等の問題も無視できません。

### (1) 危険生物への対応

#### ①ハチに刺されてしまったら

ハチは我々の身近にいる生物です。ハチを見かけたら払ったり興奮させないようにします。万が一刺されてしまった場合は次の手順で処置を行います。20～30分ほど様子を見ますが、途中で様子が少しでもおかしいと思ったら、直ちに医療機関を受診します。

ア. 刺された現場からすぐ数十メートル離れ、巣から遠ざかる。

イ. 刺された傷口を流水でよく洗い流す。ハチの針が残っている場合は、毒液を再度注入しないように毛抜きで抜くか、横に払って落とす。



ウ. 爪などで傷口周囲を圧迫し、毒液をしぼり出すように、もみながら流水にさらす(ハチ毒は水に溶けやすいため)。毒を吸い出す道具がある場合は使用する。

エ. 抗ヒスタミン剤を含有するステロイド軟膏を塗る。

オ. 濡れたタオル等で冷やし、安静にする。

カ. 息苦しさや口の乾き、冷や汗、めまい、血圧低下、しびれ、嘔吐、じんましんなどの症状が出た場合は「アナフィラキシーショック」が疑われます。命に関わるのでハチに刺されて具合が悪くなったことがある人や、様子がおかしいと感じたらただちに医療機関を受診します。エピペン(アドレナリン自己注射薬)がある場合は医療機関へ行く前に自己注射させると同時に救急車を要請します。

### ③ 蛇に遭遇した場合

暑くなってくると、蛇に噛まれることが多くなってきます。ヤマカガシなどは人里に生息しているため遭遇しやすい毒蛇です。

ア. まず噛まれた蛇が毒蛇(マムシ、ヤマカガシ)かどうか確認し、救急車を要請する。

イ. 毒蛇の場合は体を動かすと毒のまわりが早くなるため、安静にする。

ウ. 傷口より心臓に近い部分をヒモか布で軽くしぼる。

エ. 口で毒を吸い出す処置が効果的であるが、口腔内に傷等がある人はやらない。

オ. 安静な状態を保ち、医療機関へ直行する。

## (2) 毒草への対応

体調が悪くなり、その原因を確認する際に毒草であることに気づくことがほとんどです。可能であれば、原因と考えられる毒草のサンプルを持参して医療機関を受診します。

毒草を食べてしまったことが確実の場合はまず吐かせます。

## (3) アレルギーへの対応

### ① 食物アレルギーを持つ児童への対応

子どもの好きな食べ物には、アレルギーを引き起こす素材を含む食品が多数あります。まずは、健康調査票により事前に食物アレルギーの有無を把握します。

食事の対応方法については保護者と十分連絡を取り、確認しておきます。アレルギーを引き起こす食品を摂取させないことが基本ですが、万が一摂取してしまった場合は、速やかに保護者へ連絡するとともに、医療機関を受診させます。エピペン(アドレナリン自己注射薬)がある場合は、症状を観察しながらタイミングを見て自己注射させます。

### ② その他のアレルギー

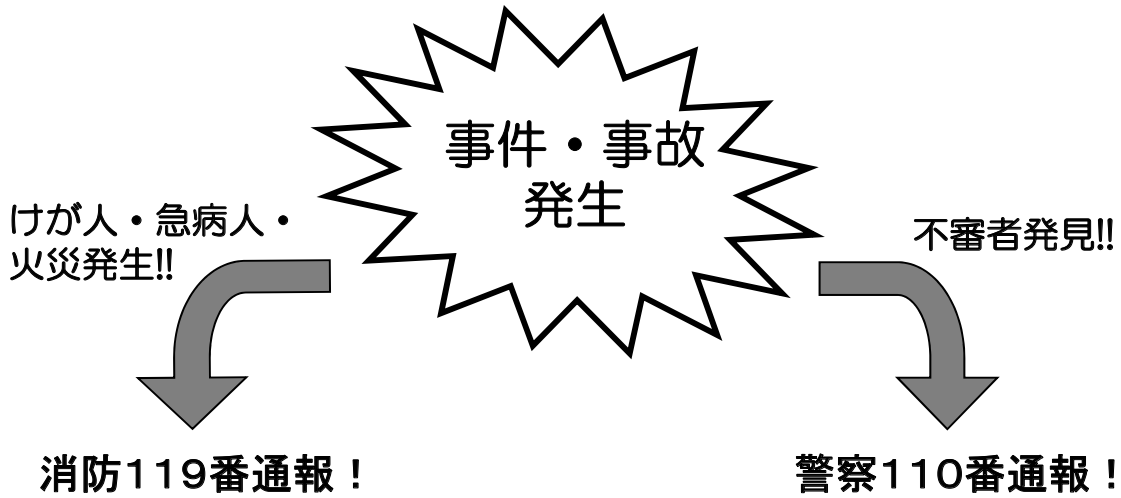
健康調査票により、蜂アレルギーなどの有無について把握し、スタッフ全員で情報を共有します。エピペン(アドレナリン自己注射薬)が処方されている児童がいる場合は対応について、家庭・学校と確認しておく必要があります。



## 事故等発生時の対処と事後処理手順

事故の種類	対 応 ・ 処 置	事 後 処 理
けが・急病の 場合	1 応急対応 (1)傷病者の症状の確認(出血・意識・呼吸・傷の状態等) (2)応急処置(心肺蘇生・AED使用の判断) (3)AED手配、スタッフへの協力要請 (4)必要時 119 番通報 2 緊急連絡 (1)保護者への連絡(けが等の状態) (2)病院への搬送の要・不要の判断(保護者の了解を得る) (3)実行委員長への連絡 (4)実行委員長は学校・教育委員会へ連絡 3 連絡事項 (1)保護者・医療機関 【症状や状態の程度・発生状況等】 (2)保護者 【治療費を保険請求するため、医療機関の領収書及び診察券のコピーが保険金請求時に必要となる旨を知らせる】	1 当事者にその後の様子を伺う。 2 事故報告書の作成 3 治療費の領収書と診察券のコピーして実行委員会等に提出 4 保険請求については実行委員会で行う ●連絡方法 <div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">スタッフ</div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">実行委員長</div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">学校・市町教委等</div> </div>
生命に関わる 重大事故	1 救急車の手配 2 保護者へ連絡 3 必要であれば警察へ連絡 4 実行委員長へ連絡 5 実行委員会は学校・教育委員会へ連絡 6 活動の継続について話し合う(最低1名は医療機関へ同行する)	1 事故発生時の状況確認 2 事故報告書の作成 3 保険請求については実行委員会で行う ●連絡方法 事故発生直ちに <div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">スタッフ</div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">実行委員長</div> <div style="font-size: 2em;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">学校・市町村教委等</div> </div> </div>
設備等損傷	1 損傷した設備等の確認 2 損傷等の状況把握(聞き取り) 3 損傷した部分の写真撮影 4 施設管理者への連絡	1 事故報告書の作成 2 保険請求は実行委員会で行う 3 修理の確認と施設管理者への謝罪
火災・地震等の 災害	1 活動を直ちに中止し、各施設の避難方法等に基づいて避難 2 参加者の人員確認、けがの有無の確認 3 保護者への連絡	1 終息後の帰宅や避難について判断 2 保護者への引渡し
不審者 侵入	1 不審者の入室・入場の防止 2 (危険が感じられる場合)参加者の安全を考えて避難 3 (指示に従わない場合)警察へ通報	1 施設管理者への事実連絡 ●連絡方法 けが・急病の場合に同じ
食中毒	1 保護者への連絡 2 病院への搬送 3 実行委員長へ連絡 4 実行委員会→保健所・学校など関係機関へ連絡	1 現場の保存と食品の拡散防止 2 設備類の点検 ●連絡方法 けが・急病の場合に同じ
感染症(インフルエンザ、ノロウイルス等)	食中毒の場合に同じ	食中毒の場合に同じ

# 緊急連絡先



## ＜通報手順＞

- ①通報者の氏名                      ②活動場所
- ③何が起きたのか  
     ・だれが   ・いつ   ・どうした、どうなっている

実行委員会事務局	
学校(教育委員会)	
休日連絡先	
夜間連絡先	
警察署・交番	
緊急時搬送車	No1 No2
病院(           科)	
病院(           科)	

けが人・急病人  
発生！！

- ・ 応急手当（止血・心肺蘇生・AED）
- ・ 他のスタッフへの連絡

重度の場合

軽度の場合

救急車要請 119番通報

保護者  
への連絡

経過観察

救急車  
への同乗

- ・ 保護者への連絡
- ・ 他の子どもの対応

病院の  
受診

直接保護者  
へ連絡

医療機関への事故発生時の  
状況説明

診断結果の確認

診断結果の確認・連絡

緊急対応後

事後状況の確認・実行委員会への速報

- 当日の事業終了後：
- ・ 記録の作成
  - ・ 重度の場合は報告を実行委員会へ提出

基本は子どもの安全確保・複数対応

不審者侵入！！

- ・まずは子どもの安全確保
- ・他のスタッフへの連絡

スタッフ自身の安全を確保しながら退去するように求める

- ・110番通報      ・複数で対応
- ・不審者を子どもから隔離できる場所へ誘導（応接室等）

暴力行為を働く場合

- ・大声で応援を求める
- ・近くにあるイスなどで防御

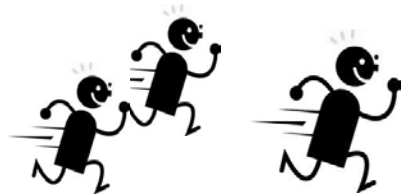
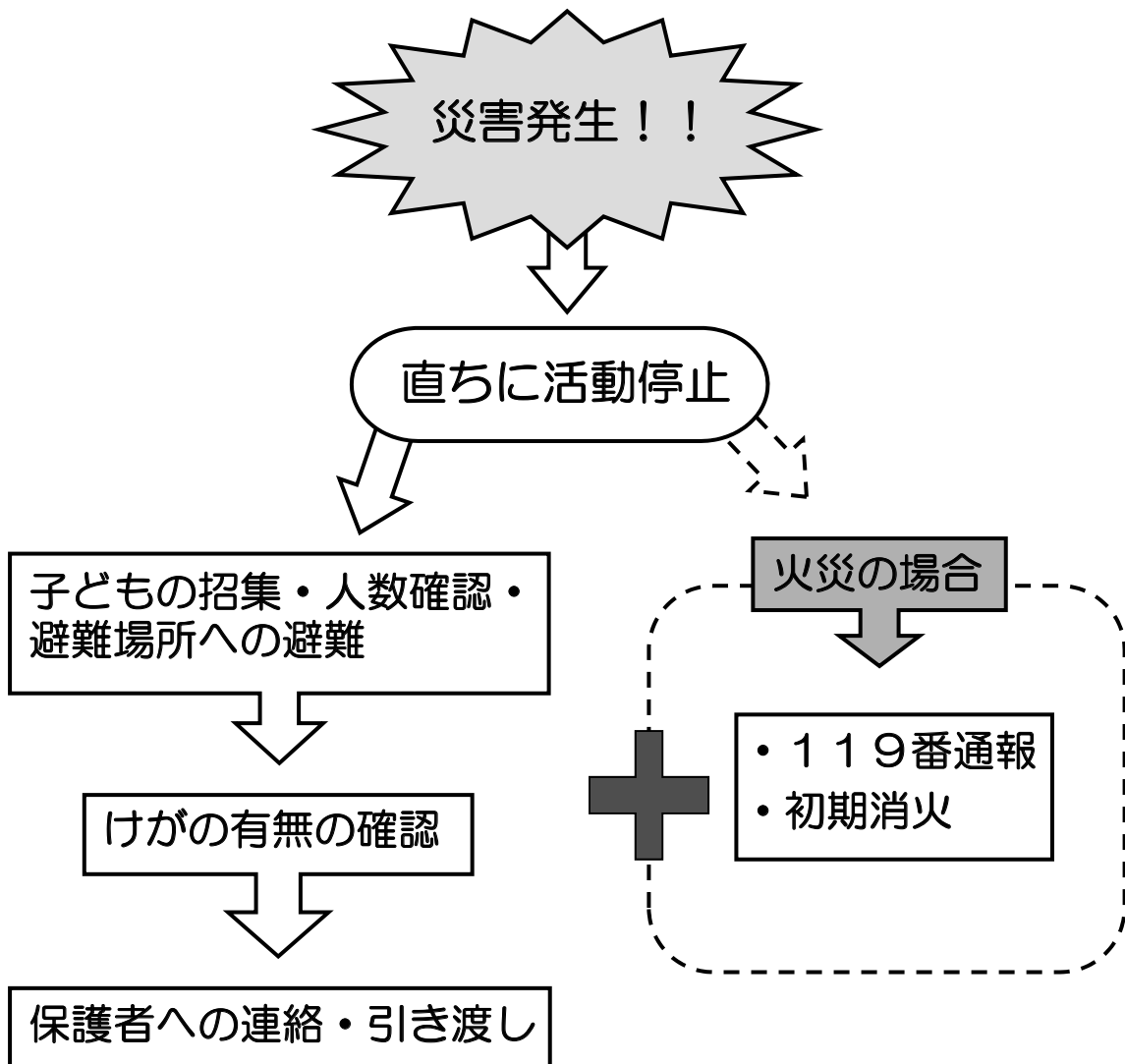
負傷者が出た場合

応急手当・119番通報

事態が沈静化した後：

- ・保護者への連絡・説明と子どもの引き渡し
- ・実行委員会や関係機関への連絡・記録の作成

災害(地震・火事等)時の対応マニュアル



## 〇〇〇〇通学合宿安全管理チェックリスト

確認日:平成 年 月 日 ( )

確認者:氏名 ( )

No.	項 目	チェック欄
1	遊具や器具の安全点検は行ったか	
2	不審者情報、災害の警報は出ていないか	
3	応急手当用品(救急箱)・AEDはそろっているか AEDが備え付けられていない場合は設置場所を確認したか	
4	活動内容として特に留意する点( )について準備できたか	
5	参加している子ども及びスタッフの保険は加入したか	
6	子どもたちがケガをしそうな危険箇所はないか	
7	活動内容の安全管理についてスタッフの共通理解はできたか	
8	健康面等(服薬、アレルギー、夜尿 など)で配慮する子どもの把握はできたか	
9	活動の前に、子どもたちに安全管理面での指導を行ったか	
10	天候の急変や付近における事件・事故の発生等は起きていないか	
11	子どもたちの様子に異変はないか	
12	子どもたちの帰宅にあたって問題はないか	
状 況 ・ 気 付 き	病気・けがの状況          その他          (○で囲む)	
	【具体的内容】	

事件・事故記録用紙

記録者氏名		記録日	
発生日時	平成 年 月 日 ( ) 時ごろ		
発生場所			
内 容	だれが、どのようなことが、どのような状況で起きたか記入する。		
発 生 場 所	図で示す。		
対 応	どのように対応したか時系列により記入する。		



こ

## 地域はみんなの宝島

こどもがまんなか みんなで「ずく」出し楽しもう！



しあわせ  
信州

県内における通学合宿の事例  
参加した子どもたちの作文  
アンケート



## 宿泊体験事業「通学合宿」(上田市)

### 地域の子どもは地域で育てよう



みんなで協力して調理します。



みんなで食べる“ごはん”は楽しく、おいしいぞ！



みんな元気に“だだいま〜”館長が迎えます。

実施日	平成25年6月11日(火)～平成25年6月14日(金)
参加者	川西・浦里小学校(4～6学年)、計31名
宿泊場所	上田市川西公民館
主催者(実行委員会)名	上田市川西公民館
主催者の構成メンバー	公民館職員
協力者	分館青少年育成推進指導員、食生活改善協議会会員、スポーツ推進委員、地域住民
食事づくり	朝・夕食：食生活改善協議会会員の指導のもと子どもたちによる自炊
入浴方法	市営入浴施設を利用(市バスにて移動)
寝具	自前のふとん、寝袋

### 通学合宿にかかった経費内訳

	区分	金額(円)	内訳
収入	参加者負担金	93,000	3000円(食費2000円、保険100円、雑費900円)×31名
	市町村補助金	77,510	指導者謝礼71000円、通信費6510円
	区・育成会補助金	0	
	その他	8,400	職員食材費
	計	178,910	
支出	謝金(お礼)	71,000	生活指導者(宿泊)2000円×3人=6000円、生活指導者(日帰り)1000円×7人=7000円、調理指導2,000円×24人=48000円、レク指導者2000円×5人=10000円
	旅費	0	謝礼込み
	消耗品費	5,796	事務用品、材料費、名札ほか
	食費	73,336	食事材料費
	通信費	6,510	切手代、ハガキ代
	賃借料	0	
	その他	22,268	保険代、風呂代、写真現像代ほか
	計	178,910	

## 通学合宿のプログラム

	1日目(火)	2日目(水)	3日目(木)	4日目(金)
朝食メニュー		班ごとの献立	班ごとの献立	班ごとの献立
開校式	川西公民館長			
特別プログラム	全体レクリエーション	班で決めたこと	班で決めたこと	全体レクリエーション、みんなへの表彰状作成、公民館掃除
夕食メニュー	班ごとの献立	班ごとの献立	班ごとの献立	カレー、サラダ
閉校式				川西公民館長
その他		お風呂		

## 実施までのスケジュール

実施日	項目	内容
1～2月	学校日程調整	通学合宿の日程と関係学校(小学校2校、ボランティア要請中学校1校)の予定を調整
4月中	関係者あいさつ	分館青少年育成推進指導員、食生活改善協議会委員、スポーツ推進委員等あいさつ及び概要説明
4月末	参加者募集	関係小学校(浦里・川西小学校)を通じて4年生以上に募集チラシ配布
5月14日	募集締切り	募集締切り、受入れ判断
5月中	関係者打合せ	関係者打合せ
5月中旬	学校打合せ	最終日程打合せ、班編成調整ほか打合せ
5月25日	説明会・事前研修	保護者説明会、参加児童による事前研修(班発表、正副班長決め、目当て決め、食事献立決めほか)
6月11日	荷物受入れ	参加児童用の荷物受入れ(ふとん、着替えほか)
6月11日	通学合宿実施	参加児童受入れ、通学合宿開始

## これから通学合宿を始める方へのアドバイス

- 参加する児童及び保護者に対し、目的と意義を説明し、理解していただく機会と時間を持つことで、より一層教育的効果が高まります。
- 参加する児童のみならず、支援に携わる大人も目的と意義を認識することが大事ですし、子どもたちの接し方を事前学習することも大切です。
- 様々な体験活動をさせてあげたいと思いますが、毎日が公民館生活だけではなく、学校での生活があります。あまり盛りだくさんとせず、普段の生活リズムに軸足をおいた方が良いでしょう。
- 普段家庭ではしないことを自身と仲間とでやり通したことで自信につながって、親からするとたくましさを感じるようです。
- 参加児童や保護者、大人の従事者にアンケートをとりましょう。心が萎えることもありますが、励みにもなります。
- 学校との連携は不可欠です。実施前はもちろん、実施後の意見交換(反省)会も大切です。



## さなだっ子ふれあい通学合宿（上田市）

実施日	平成 25 年 8 月 25 日（日）～ 28 日（水）
参加者	真田地域小学生 20 名（長小、傍陽小、本原小）
宿泊場所	真田中央公民館
主催者（実行委員会）名	真田中央公民館
協力者	明治大学文学部教職課程の学生ボランティア、食生活改善推進協議会真田支部
食事づくり	朝食・夕食ともに、子どもと学生スタッフの自炊。
入浴方法	日帰り温泉施設ふれあいさなだ館
寝具	家庭から持参

### 通学合宿にかかった経費内訳

	区 分	金額（円）	内 訳
収 入	参加者負担金	70,000	3500円×20名
	市町村負担分	393,017	
	計	463,017	
支 出	謝金（お礼）	374,000	学生ボランティア謝金8人分330,000円、食生活改善推進協議会真田支部44,000円
	消耗品費	12,726	
	食 費	46,291	
	そ の 他	30,000	報告書（感想文集）印刷代
	計	463,017	

## 通学合宿のプログラム

1日目	2日目	3日目	4日目
午後1時30分 ・はじめの会 ・公民館施設の説明 午後2時15分 ・係分担、目標決め ・係りと目標の発表 午後3時 ・会場準備とそうじ 午後3時30分 ・レクリエーション 午後4時15分 ・おやつ ・調理室の使い方説明 ・衛生面注意事項説明 ・4日間のメニュー 午後4時45分 ・夕食作り 午後6時 ・夕食、片づけ 午後7時 ・学校の準備 午後7時30分 ・お風呂 午後8時30分 ・一日のふりかえり 午後9時30分 ・消灯	午前5時30分 ・起床 午前5時50分 ・朝食作り 午前6時20分 ・朝食 ・歯みがき、登校準備 午前6時50分～ ・登校 ～学校～ 午後4時ころ ・下校 ・おやつ ・宿題 ・学校の準備 ・そうじ、整理 午後5時30分 ・夕食作り 午後7時 ・夕食と片づけ 午後8時 ・お風呂 午後9時 ・一日のふりかえり 午後9時30分 ・消灯	午前5時30分 ・起床 午前5時50分 ・朝食作り 午前6時20分 ・朝食 ・歯みがき、登校準備 午前6時50分～ ・登校 ～学校～ 午後4時ころ ・下校 ・おやつ ・宿題 ・学校の準備 ・そうじ、整理 午後5時30分 ・夕食作り 午後7時 ・夕食と片づけ ・食改から講評 午後8時 ・自由時間（けしごむはんこ製作） 午後9時 ・一日のふりかえり 午後9時30分 ・消灯	午前5時30分 ・起床 午前5時50分 ・朝食作り 午前6時20分 ・朝食 ・歯みがき、登校準備 午前6時50分～ ・登校 ～学校～ 午後3時30分ころ ・下校 ・荷物まとめ ・会場片づけ ・全体のそうじ 午後4時30分 ・修了証づくり 午後5時30分 ・おわりの会 午後6時30分 ・解散

## 実施までのスケジュール

実施日	項目	内容
6月4日	学生ボランティア募集	連絡窓口役の学生を通して、ボランティア募集
6月14日	小学生宛募集通知配布	各小学校の協力を得て、参加者募集の通知を配布
7月2日	調理指導打ち合わせ	調理指導をお願いする食生活改善推進員と打ち合わせ
7月27日	事前説明会	小学生及び保護者向け事前説明会と、食事メニューを各グループで決定
8月5日	メニュー検討会議	食改、健康福祉課栄養士、公民館担当者と、小学生が考えたメニューを検討
8月8日	学生ボラ顔合わせ	学生ボランティアと顔合わせ
8月25日	学生ボラ会議	合宿期間中の留意事項等
8月25日	通学合宿実施	

## これから通学合宿を始める方へのアドバイス

- 真田中央公民館では、小学生が普段家庭でやっていることを、合宿中、自分たちの力でやりきることを目標に実施している。  
起床と就寝、食事、宿題、学校準備などがプログラムの中心。
- 参加する小学生は、もともと「自己肯定感」や「生活力」を持っている子が多い。生活力をあげたり、自己肯定感を養わせてあげたいような子どもが、通学合宿に参加するようにするためには、別の工夫が必要である。
- 真田中央公民館の通学合宿の実施体制は、従前から、地域住民や学校との連携が薄く、学生スタッフが中心を担っている。
- 通学合宿の教育効果について、学校と共通認識をはかることが、より事業効果を高めるためには必要だと思われる。真田は、そのような体制は整っていない。
- 公民館側で、通学合宿実施にあたって全ての物理的条件がそろうことはない。例えば、真田では昨年からは、子どもがお店に買い出しに行くことはとりやめた。代わりに調理時間を長くして子どもたちが自分で調理をやるようにした。
- ボランティアや公民館側が、小学生に対して、一貫した姿勢を持つことが必要である。何を厳しく指導し、何を大目に見るか、など。また、安全にケガや病気をしないで、期間中を過ごすことも、大切な目標であると考えている。こうしたことを、事前打ち合わせ等で話し合っておくことが大切。



## 通学合宿（岡谷市）

### エンジョイ&GO スクール



みんなで宿題



塩嶺野外活動センターに帰ってきました

実施日	平成 24年 9月 27日(木) ～ 29日(土)、10月 4日(木) ～ 6日(土) 2泊3日
参加者	小学生 57名、中学生 38名、高校生 26名（内リーダー 59名）
宿泊場所	岡谷市塩嶺野外活動センター
主催者（実行委員会）名	岡谷市子ども会育成連絡協議会、岡谷市教育委員会
主催者の構成メンバー	岡谷市リーダーズ倶楽部、子ども会育成会役員、事務局（行政）
協力者	岡谷市赤十字奉仕団
食事づくり	1日目夕食と2日目朝食は日赤奉仕団に依頼、他は子ども達による自炊
入浴方法	施設のシャワー
寝具	リース

### 通学合宿にかかった経費内訳

	区分	金額（円）	内 訳
収 入	参加者負担金	294,500	2,500円×97名（1回参加者）、4,000円×13名（2回参加者）
	市町村補助金	175,446	127,000円×2回（78,554円は戻入）
	区・育成会補助金		
	その他（事務局等食糧費）	7,800	1,000円×3名×2回、300円×3名×2回
	計	477,746	
支 出	謝金（お礼）		
	旅 費		
	消耗品費	168,892	事務用品、子ども会バス燃料代 ほか
	食 費	184,074	
	印刷製本費	8,580	現像代
	賃借料	26,200	寝具 200円×131名
	その他	90,000	子ども会バス使用料 15,000円×6日
	計	477,746	

## 通学合宿のプログラム

	1日目	2日目	3日目
朝食メニュー		おにぎり、みそ汁	サンドウィッチ
開校式	教育長		
特別プログラム	レク&ダンス練習	キャンプファイヤー	奉仕活動
夕食メニュー	カレー、サラダ	バーベキュー	
閉校式			子ども会会長
その他			

## 実施までのスケジュール

実施日	項目	内容
7月上旬	起案（教育長決裁）	校長会で協力要請
7月25日	参加者募集	小中学校を通じて募集チラシ配布
9月上旬	ボランティア協力依頼	食事協力団体との打合せ
9月	スタッフ会議	リーダーズ倶楽部打合せ（随時）
9月20日	子ども会理事会	役員に周知
9月9日	第1回事前説明会	参加児童とスタッフ顔合わせ、係決め、係会
9月23日	第2回事前説明会	しおり配布、参加費納入、注意事項説明
9月26日	荷物受付	参加者の荷物を預かり宿泊施設へ運搬
9月27日	通学合宿実施	（2回目）10月4日

## これから通学合宿を始める方へのアドバイス

- 大人は完全に裏方に徹して、表に出て子どもたちを指導するのは同世代の中学生、高校生のリーダーズにお願いしています。
- 子供は子供の中で育ち、子供は子供に育ててもらおうという思いを込めて、企画、運営、指導をリーダーズ倶楽部に任せています。



## 西箕輪通学合宿（伊那市）

①異年齢での共同生活により、友だち関係づくりの能力や協力する力の向上。

②自主的・自立的な生活により、自分で計画を立て実行する能力の向上。

③家族と離れて生活することにより、家族への感謝の気持ちの向上。

実施日	平成 25年 5月 26日(日) ～平成 25年 5月 31日(金) 5泊6日
参加者	西箕輪小学校 小学4年：8名、小学5年：6名、小学6年：17名 計31名
宿泊場所	西箕輪公民館
主催者(実行委員会)名	主催：西箕輪公民館 共催：西箕輪子ども会育成会
協力者	西箕輪小学校・西箕輪小学校PTA・信州大学農学部学生ボランティア・市内学校 栄養士・市内公民館主事・社会教育委員・主任児童委員・伊那市観光(株)・一般 ボランティア
食事づくり	朝食・夕食：自炊
入浴方法	近隣温泉施設で入浴
寝具	日曜日に持参

### 通学合宿にかかった経費内訳

	区分	金額(円)	内訳
収入	参加者負担金	124,000	4000円×31名
	市町村補助金		
	区・育成会補助金	40,367	地区公民館活動費
	その他	5,000	西箕輪小学校
	計	169,367	
支出	入浴料	22,400	みはらしの湯(4日分)
	清掃費	29,138	クリーニング
	消耗品費	14,832	事務用品、救急用具 ほか
	食費	87,497	事前説明会、合宿朝・夕食
	登録料	15,500	伊那市500円×31名
	計	169,367	



## 通学合宿のプログラム

	1日目	2日目	3日目	4日目
朝食メニュー		フレンチトースト	はんぺんのチーズ焼き	たまごとハムの炒めもの
開校式	館長・育成会長・小学校長			
特別プログラム	キャンプファイヤー		花火	ストローとんぼ作り
夕食メニュー	ハンバーグ	焼き肉	カラフルミートボール	レモンチキン
閉校式				
その他				

	5日目	6日目	事前説明会	
朝食メニュー	たまご焼き	スクランブルエッグ	午前	日程・持ち物説明、調理注意点
開校式				
特別プログラム	肝試し	公民館清掃・感想文・手紙	昼	調理実習(カレー)
夕食メニュー	春キャベツと豚バラ肉の塩炒め		午後	予算内での献立作成、買い物先見学
閉校式		館長・育成会長・小学校長		
その他				

## 実施までのスケジュール

実施日	項目	内容
4月17日	第1回打合せ	実施要項、日程、募集方法
4月18日	参加者募集	西箕輪小学校を通して4年生以上に募集チラシ配布
5月1日	第2回打合せ	応募状況、事前説明会、持ち物及び準備品、スタッフ役割
5月7日	ボランティア募集	学生ボランティア募集
5月8日	ボランティア募集	学生ボランティア募集
5月9日	関係者へ依頼	伊那市観光(株)・講師等
5月11日	事前説明会	参加児童とスタッフ顔合わせ、注意事項説明、班決め、献立決め
5月26日	通学合宿実施	西箕輪通学合宿実施

## これから通学合宿を始める方へのアドバイス

- 毎日寝る前に班ごと反省会を行うことにより、3日目ぐらいから自ら時間を考えて行動できるよう変化が現れた。
- 通学しながら実施するという時間的な制約の中で行うことにより、親の大変さに気付き、感謝の気持ちが生まれている。
- 登校時・帰館時にスタッフが積極的にあいさつすることにより、学校でも大きな声であいさつができるようになった。
- 子どもは寂しさを我慢して参加しているので、合宿期間中は、怪我・病気等の非常時以外親子が会わないようにしてもらっている。
- 調理時の安全についてはもちろんですが、衛生面（食中毒対策等）についても十分な配慮が必要。



## 通学合宿（駒ヶ根市）

### 自分たちの生活を自分たちの手で作りだそう

実施日	平成 25年 7月 16日(火) ～平成 25年 7月 19日(金) 3泊4日
参加者	東伊那小学校 小学6年：26名
宿泊場所	ふるさとの家
主催者(実行委員会)名	通学合宿企画委員会
協力者	市教育委員会 管理栄養士 ふるさとの家職員 東伊那公民館 東伊那小学校PTA 学校栄養士 東伊那小学校職員
食事づくり	児童
入浴方法	ふるさとの家
寝具	ふるさとの家

### 通学合宿にかかった経費内訳

	区分	金額(円)	内訳
収入	参加者負担金	157,300	6,050円×26名
	市町村補助金	122,700	1,250円×3日分×26人+25,200円(ボランティア宿泊費)
	ふるさと学習補助費	17,000	炊事室体験室使用料12,000円 ボランティア食費5,000円
	その他		
	計	297,000	
支出	宿泊代	232,200	児童宿泊代2,500円×3日分+体験室炊事室使用料12,000円+ボランティア宿泊代25,200円
	食費	39,000	250円×6食分×26人
	体験学習費	20,800	あい染め体験800円×26人
	その他	5,000	ボランティア食費 250円×20食分
	計	297,000	

### 通学合宿のプログラム

	1日目(日)	2日目(月)	3日目(火)	4日目(水)
朝食メニュー		いりたまご 味噌汁 浅漬け	フレンチトースト 野菜スープ	卵焼き 味噌汁 野菜サラダ
開校式	ふるさとの家			
特別プログラム			きもだめし	あい染め体験
夕食メニュー	からあげ 野菜サラ ダトマトスープ	お好み焼き 浅漬け たまごスープ	ハンバーグ 野菜サ ラダ フルーチェ	豚肉のショウガ焼き 野菜サラダ コンソ メスープ
閉校式				ふるさとの家
その他				

## 実施までのスケジュール

実施日	項目	内容
7月3日	第1回企画委員会	企画委員会立ち上げ、実施要綱確認、分担決め
7月9日	献立指導	学校栄養士の先生から献立作成の留意点を指導していただく
7月16日	通学合宿実施	通学合宿実施

## これから通学合宿を始める方へのアドバイス

- 献立作成等できるだけ子どもたちに任せることで、自立心を養うことができたと思う。材料の買い忘れ等もあったりしたが、他の班の友だちが分けてくれたりして協力する姿も見られた。  
大人がすぐ手をさしのべるのではなく、失敗することも想定内として見ていくことが子どもたちの自立心を育てる上で大切なことだと思う。
- 3泊4日という長い期間なので、担任一人では負担が重すぎるが、企画委員会が立ち上がっており、様々な方面の方々にボランティアとして入っていただけだったので、無理なく進められている。また、担任以外の方々に教えていただいたり見守っていただいたりできたことで、子どもたちは地域のたくさんの方々に支えられていることを実感し、感謝の言葉が自然と出ていた。  
地域との結びつきを深める上でも有意義な活動になった。
- 家庭科の時間等を横断的に使い、料理の基礎的な技能をつけておくことや、洗濯ものをたたむなど自分のことを自分でできるように家庭とも連携して日頃から自立に向けて体験を積み重ねておくことが必要だと思う。



## 八坂美麻合同通学合宿（大町市）

子ども達が親元を離れ、身の回りのことは自分で行う力を身につけ、共に生活する楽しさと厳しさを体験すること

実施日	平成25年5月29日(水)～6月2日(日)（4泊5日） 6月1、2日はキャンプ
参加者	美麻小学校4年生 5名
宿泊場所	通学合宿（山村留学センター）、キャンプ（切久保いこいの館）
主催者（実行委員会）名	美麻公民館、大町市八坂・美麻山村留学推進協議会、美麻地区子ども会育成協議会
協力者	美麻小学校、美麻小学校PTA、（財）育てる会八坂美麻学園
食事づくり	山留センターの調理員の方、キャンプは自炊活動
入浴方法	山村留学センターの風呂に入浴
寝具	山村留学センターの布団、キャンプはテント・シュラフ

### 通学合宿にかかった経費内訳

	区分	金額（円）	内訳
収入	参加者負担金	25,000	5,000円×5名
	市町村補助金		
	区・育成会補助金		
	その他	79,800	大町市事業委託費53,800円、山村留学推進協議会補助金6,000円、美麻公民館活動費（一般会計）20,000円
	計	104,800	
支出	謝金（お礼）	50,000	講師謝礼（10,000円×5日）
	旅費		
	消耗品費		
	食費	31,000	6,200円×5名
	通信費		
	賃借料	3,500	テント・シュラフ代（700円×5名）
	その他	20,300	宿泊費（3,600円×5名）、傷害保険料（460円×5名）
	計	104,800	

## 通学合宿のプログラム

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
朝食メニュー		ご飯、味噌汁、ホッケ、ウドの煮物、ほうれん草のおひたし、がんもの煮物、沢庵、ジュース、オレンジ	ご飯、味噌汁、ハムエッグ、アスパラのゴマ和え、キャベツの塩麴炒め、海苔、オレンジ	ご飯、味噌汁、アスパラの卵とじ、なます、昆布の佃煮、みょうがだけのおかか和え、オレンジ	パン、ソーセージ、チーズ、バナナ、フルーツジュース
開校式	八坂公民館主事				
特別プログラム				キャンプ	キャンプ
夕食メニュー	ご飯、味噌汁、鶏肉のから揚げ、生野菜、アスパラの白和え、筍とワラビの煮物、アスパラチーズ、ゼリー	ご飯、中華スープ、春雨とひき肉の炒め物、もやしとニラのおひたし、焼きアスパラの和風トマトがけ、みょうがだけの和え物、オレンジ	【箱膳活動】 ご飯、味噌汁、焼き鮭、イラクサのおひたし、ウドの酢味噌和え、沢庵、アスパラの天ぷら、五目豆、ジュース、オレンジ	カレーチャーハン、野菜スープ、カレーライス	
閉校式					美麻公民館長
その他					

## 実施までのスケジュール

実施日	項目	内容
4月26日	保護者説明会	通学合宿の趣旨説明
5月20日	参加者募集	美麻小学校4年生の担任の先生を通じ募集チラシ配布
5月29日	通学合宿実施	八坂美麻合同通学合宿実施

## これから通学合宿を始める方へのアドバイス

- 費用面の補助がどうなるのか、全額受益者負担などの決定がまず大事かと思ひます。持続可能なものにしないと効果はないと思うので、出所をはっきりさせておくことが必要かと思ひます。
- 中身については、生活体験を大事にすることが、子ども達の非日常の気づきを促し、自立への出発点となるものになるかと思ひます。
- 指導者をどう確保するか、起床から就寝まで生活を見るので、それが可能な指導体制をとることが必要です。
- 週末を使って、地域の特性を利用したダイナミックな活動や非日常体験を存分にさせることが、次回参加への意欲につながると思ひます。



## 通学合宿（大町市）

集団生活体験を通じて協力、我慢、思いやりの大切さを学ぶ



いただきます



宿題タイム



パームクーヘンを焼いています

実施日	平成 25年 5月 29日(水) ～平成 25年 6月 2日(日) 4泊5日
参加者	八坂小学校 5年：12名
宿泊場所	(財) 育てる会八坂美麻山村留学センター
主催者(実行委員会)名	八坂公民館
主催者の構成メンバー	館長、主事
協力者	(財) 育てる会、八坂小学校、子ども会育成会、山村留学推進協議会
食事づくり	(財) 育てる会八坂美麻山村留学センター職員
入浴方法	(財) 育てる会八坂美麻山村留学センター大浴場 (キャンプ中無)
寝具	(財) 育てる会八坂美麻山村留学センター寝具 (キャンプ中寝袋)

### 通学合宿にかかった経費内訳

	区分	金額(円)	内訳
収入	参加者負担金	60,000	5,000円×12名
	市町村補助金		
	区・育成会補助金	71,532	
	その他	50,000	大町市教育委員会八坂公民館一般会計
	計	181,532	
支出	謝金(お礼)	50,000	
	旅費		
	消耗品費		
	食費	74,400	6,200円×12名
	宿泊費	43,200	山村留学センター宿泊費
	賃借料	8,400	キャンプ用品(テント、寝袋、飯盒)
	保険料	5,532	461円×12名
	計	181,532	

## 通学合宿のプログラム

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
朝食メニュー	きのこケチャップいため	ホッケ	ハムエッグ	アスパラ卵とじ	オムレツ
開校式	公民館主事				
特別プログラム	太鼓練習	太鼓練習	太鼓練習	キャンプ	キャンプ
夕食メニュー	鶏肉唐揚げ	春雨と挽肉炒め	焼き鮭	カレー	
閉校式					公民館長
その他					

## 実施までのスケジュール

実施日	項目	内容
2月7日	打合せ	公民館、育てる会、小学校との打ち合わせ
4月13日	説明会	小学校5年生の保護者説明会
5月1日	開催及び募集通知	小学校5年生及び保護者あてに開催通知発送
5月29日	通学合宿実施	小学校下校時から山村留学センターへ

## これから通学合宿を始める方へのアドバイス

- 八坂小学校5年生と美麻小学校4年生、山村留学生という異年齢や普段接したことのない子供たちとテレビのない4泊5日の共同生活を送り、助け合いや思いやりといった意識が身についた。
- 山村留学センターから、八坂小学校まで約3kmを集団で登下校し、連帯感やコミュニケーションを図れるようになったと思う。
- 山村留学センターの職員が豊富な経験や知識を生かし指導に当たってくれるため、厳しい中にも「楽しかった」という子供たちが大半であった。



## あおきっこ合宿（青木村）

### One Step ～一步をふみだそう～



集合写真



ボランティアのみなさんと夕食作り



来賓の皆さんを



宿題タイム

実施日	平成 25年 5月 12日(日) ～ 18日(土) 6泊 7日
参加者	青木小学校 小学 4 年：15 名 小学 5 年：11 名 小学 6 年：13 名 計 39 名
宿泊場所	青木村文化会館
主催者(実行委員会)名	青木村教育委員会
協力者	信州大学教育学部生「信大 YOU 遊未来・青木」29 名 地域ボランティア 7 名
食事づくり	朝食：給食業者 夕食：子ども、大学生、地域ボランティアによる自炊
入浴方法	近隣入浴施設 *月曜日のみ近隣協力宅にて入浴
寝具	子ども：各自持参 大学生：村備品を使用

### 通学合宿にかかった経費内訳

	区分	金額(円)	内訳
収入	参加者負担金	273,000	7,000円×39名
	市町村補助金	224,000	村会計より
	区・育成会補助金		
	その他		
	計	497,000	
支出	謝金(お礼)	224,000	大学生及び調理補助ボランティア謝礼
	旅費	36,939	大学生交通費(長野～青木)
	消耗品費	49,190	
	食費	173,271	
	通信費		
	賃借料		
	その他	13,600	保険料
	計	497,000	



## 通学合宿のプログラム

	1日目	2日目	3日目	4日目
朝食メニュー		豚汁	焼き魚	スクランブルエッグ
開校式	教育長挨拶			
特別プログラム				保護者からの手紙を開封
夕食メニュー	カレー	生姜焼き	サバの味噌煮	三色丼
閉校式				
その他				

	5日目	6日目	7日目
朝食メニュー	炊き込みご飯	焼き魚	ミックスサンド
開校式			
特別プログラム	夜の散策	最終夜パーティ	
夕食メニュー	チンジャオロース	手巻き寿司	
閉校式			教育長挨拶
その他			

## 実施までのスケジュール

実施日	項目	内容
3月4日	関係者打ち合せ	教育委員会の担当者と大学生の代表者による話し合い
4月4日	参加者募集	青木小学校を通して4年生以上に募集チラシを配布
4月11日	説明会	参加を検討している保護者向けの説明会
4月26日	参加者打ち合せ会	参加児童・保護者・大学生スタッフの顔合わせ、日程説明など
4月27日	プレ合宿	大学生スタッフのみの事前練習（1泊）
5月12日	合宿実施	あおきっこ合宿実施

## これから通学合宿を始める方へのアドバイス

- 大学生が運営の中心を担う場合、大学生の意向をなるべく尊重し、職員は裏方に回ることが大事では。
- 食事に関しては、朝食は参加児童達に無理に作らせるよりも給食業者を入れた方が良い。  
\*早朝にボランティアを依頼することは、ボランティア・受け入れ側の双方にとって負担が大きい。



## 阿智第二小学校5学年通学合宿（阿智村）

集団宿泊体験を行うことを通して、自立的な生活への自信、手がかりを得ること。



飯伊森林組合の方のお話し



間伐作業



自然観察（モリアカゲル）



ダッチオープンでお料理

実施日	平成 25年 6月 25日～ 28日 〈3泊 4日〉
参加者	5年生児童 18名
宿泊場所	なみあい遊楽館
主催者（実行委員会）名	阿智村教育委員会
協力者	NPOなみあい育遊会
食事づくり	夕食：子ども達による自炊
入浴方法	なみあい遊楽館にて入浴
寝具	なみあい遊楽館の布団

### 通学合宿にかかった経費内訳

	区分	金額（円）	内 訳
収入	参加者負担金	66,600	学年費
	市町村補助金	105,900	学力向上推進事業交付金（村）
	区・育成会補助金		
	その他		
	計	172,500	
支出	謝金（お礼）	18,000	自然体験指導料 1000円×人数分
	旅 費	70,200	宿泊費 1泊1300円×3泊×人数分
	消耗品費		
	食 費	68,100	児童食事・おやつ代、最終日引率職員3名分
	通 信 費		
	賃 借 料		
	その他	16,200	保険料 900円×人数分
	計	172,500	

## 通学合宿のプログラム

	1日目	2日目	3日目	4日目
朝食メニュー		子ども達・育遊会 スタッフと自炊	子ども達・育遊会 スタッフと自炊	子ども達・育遊会 スタッフと自炊
開校式	山村留学生との対面			
特別プログラム		星の観察	キャンプファイヤー	自然体験活動（自然観察、畑仕事、野外炊飯、間伐作業）
夕食メニュー	子ども達・育遊会 スタッフと自炊	子ども達・育遊会 スタッフと自炊	子ども達・育遊会 スタッフと自炊	
閉校式				第二小学校長
その他		農作業体験	交流スポーツ	

## 実施までのスケジュール

実施日	項目	内容
月 日		学校校外授業のため、なみあい育遊会スタッフと先生方にて検討
月 日	事前説明会（3回）	保護者に対し、参観日を利用して理解を求める

## これから通学合宿を始める方へのアドバイス

本村の子ども達は、都会の子供たち同様、人間関係の希薄化・生活等の体験不足が課題となっております。また、村が独自に行ってきた生活実態調査や全国学力調査の結果から、基本的な生活習慣や学習習慣が十分身につけていない児童が増えていることがわかっています。そこで、しっかりと学力を身につけ、健康で生き生きとした若者へと成長するため、まず日常の生活習慣を改善する必要があるとして、新学習指導要領に先んじて平成22年度よりこの事業が始まりました。

実施後は、児童・保護者にアンケートを行っておりますが、その中で、施設では分担に従って食事作り、清掃、洗濯、風呂準備など行い、宿題も出来ました。さらに、一人で過ごすことやテレビ・ゲームのない生活に不安を感じていた児童もいましたが共に生活する中で共同生活を楽しむ事が出来、自立に向け意識を高め、生活を見直す機会の提供ができたようです。また、心配が先行していた保護者も子どもの話や、その後の姿を見る中で安心を感じ取れるようになっていきます。



# 自分と友だち再発見！（豊丘村）

子どもの世界の思いやりとやさしさを発見し、楽しい生活を実感しよう！



読み聞かせのボランティア  
アさんと

夜のお散歩

行ってきまーす

実施日	平成 25 年 6 月 18～21 日、7 月 2～5 日、7 月 9～12 日、7 月 16～19 日、8 月 27～30 日、 9 月 3～6 日 火曜日～金曜日の 3泊 4日を 6グループ
参加者	南小学校 4 学年児童 43 名、北小学校 4 学年児童 16 名 計 59 名
宿泊場所	児童養護施設「慈恵園」
主催者（実行委員会）名	通学合宿プロジェクト委員会
主催者の構成メンバー	教育委員・社会教育委員・学校長・担任・PTA 会長・PTA4 学年部・慈恵園園長、副 園長・教育委員会教育長・事務局長・学校教育係長・社会教育係長
協力者	飯田女子短期大学幼児教育学科学生・公民館読み聞かせグループ・慈恵園職員
食事づくり	慈恵園調理場調理員 + 通学合宿調理補助スタッフ
入浴方法	慈恵園のお風呂
寝具	レンタル

## 通学合宿にかかった経費内訳

	区分	金額（円）	内 訳
収入	参加者負担金		
	市町村補助金	600,000	
	区・育成会補助金		
	その他		
	計	600,000	
支出	謝金（お礼）	110,000	講演会講師 20,000 円・学生スタッフ 60,000 円・公民館 グループ（2グループ） 30,000 円
	旅 費		
	消耗品費	163,900	食材費、事務用品
	食 費		
	通 信 費		
	賃 借 料	231,000	布団レンタル料
	その他	95,100	保険料 21,300 円・調理スタッフ賃金 73,800 円
	計	600,000	

## 通学合宿のプログラム

### 【火曜日】

16:00	下校（南北一緒に）
16:30	入室・施設見学・合宿説明
17:00	宿題
18:00	夕食準備
18:30	夕食
19:00	読み聞かせ
20:00	入浴・洗濯・学校準備・就寝準備
21:00	消灯

### 【金曜日】

06:00	起床・洗顔・朝食準備・洗濯物片付け
06:30	朝食・片付け
07:00	登校準備（持ち物確認・排便）
07:15	登校～各学校で通常授業

### 【水・木曜日】

06:00	起床・洗顔・朝食準備・洗濯物片付け
06:30	朝食・片付け
07:00	登校準備（持ち物確認・排便）
07:15	登校～各学校で通常授業
15:30	（木曜日は16:00）下校（南北一緒に）
16:00	（木曜日は16:30）宿題・自由時間
18:00	夕食準備
18:30	夕食（木曜日は園生と交流会）
19:00	夜間散歩（木曜日は園生と交流会）
20:00	入浴・洗濯・学校準備・就寝準備
21:00	消灯

## 実施までのスケジュール

実施日	項目	内容
2月6日	打ち合わせ会	社会教育委員からの素案に沿って校長、PTA会長、教育委員会で打ち合わせ
4月25日	南小保護者説明	保護者全体へ「通学合宿」について説明会を行う
4月26日	女子短へ説明	ボランティア募集（生活支援スタッフ）の説明を行う
5月2日	北小保護者説明	保護者全体へ「通学合宿」について説明会を行う
5月7日	プロジェクト委員会	説明会の折に出た保護者会の意見を検討、今後の方向について話し合う
5月17日	女子短へ詳細説明	生活支援スタッフとしての視点を明確にする
5月24日	該当保護者説明会	両校の4学年保護者に向けての詳細説明会を行う
5月31日	希望取りまとめ	通学合宿への参加を含め、希望の時期の取りまとめを行う
6月4日	グループ分け	担任によりグループ分けを行う
6月10日	健康調査票の配布	健康調査票を配布し、実施3日前に提出してもらう
6月11日	協力スタッフ依頼	読み聞かせグループ、調理補助員の依頼
6月18日	通学合宿実施	第1グループ実施

## これから通学合宿を始める方へのアドバイス

- 豊丘村で行った通学合宿は、児童養護施設「慈恵園」を宿泊場所としており、通常の通学合宿とは一風変わった取り組み方法であると思います。上手に親離れ、子離れができるための一助になることと“児童養護施設”の正しい理解もねらいの一つとなっています。ですから、参考やアドバイスになるかわかりません。
- 参加児童の健康調査は細目に行います。（アレルギー・夜尿・検温・・・）緊急連絡網をつくり学校や家庭への連絡を密にします
- 洗濯や布団の上げ下げなど、自分のことは自分ですることで、普段何気なく当たり前のようにやってもらっていることに、大変さや感謝の気持ちを持ち、合宿が終わっても自分でやろうという気持ちになれる。
- 事業終了後、保護者・子ども宛てにアンケート調査を行う。



## ジュニアリーダー通学学舎（山形村）

家族と離れ、普段とは違う異年齢との共同生活の中で、「思いやること」、「助け合うこと」、「がまんすること」などを学ぶ。自主的な生活の中から自分の生活は自分で切り開く力を高め、テレビやゲーム機のない生活の中で時間お使い方を学ぶ。上級生はリーダーとしての自覚と責任を育み、下級生は集団行動によって得られる感動やガマンを学ぶことができる。



地域の方とおやきづくり



自由時間



配膳も自分たちで

実施日	平成24年9月2日(日)～5日(水) 3泊4日
参加者	小学校4年生以上の希望者の22名 4年生・・・9人 5年生・・・4人 6年生・・・9人
宿泊場所	山形村農業者トレーニングセンター
主催者(実行委員会)名	山形村公民館
協力者	山形村教育委員会、山形村社会教育委員、食生活改善推進協議会、山形小学校、一般ボランティア
食事づくり	食生活改善推進協議会、村栄養士の協力による自炊
入浴方法	保健センターの公衆浴場使用
寝具	各自持参

### 通学合宿にかかった経費内訳

	区分	金額(円)	内訳
収入	参加者負担金	88,000	4,000円×22人
	市町村補助金		
	区・育成会補助金		
	その他	5,795	役場職員食費 305円×19食
	計	93,795	
支出	謝金(お礼)		
	旅費		
	消耗品費	4,440	キッチンタオル等消耗品
	食費	36,686	野菜は地元農家の差し入れ
	通信費		
	賃借料		
	その他	10,472	保険料476円×22人
	6,500	入浴料 100円×65人	
	35,605	精算による返金	
	計	93,703	

## 通学合宿のプログラム

	1日目	2日目	3日目	4日目
朝食メニュー		ポトフ、フレンチサラダ、フルーツヨーグルト和え	チーズオムレツ、夏野菜のポン酢がけ、じゃがいもの味噌汁	小女子の甘辛、スクランブルエッグ、南瓜ソテー、きゅうりの浅漬け、豆腐とわかめの味噌汁
開講式	公民館長ほか			
特別プログラム	地震総合防災訓練とおやしき造り体験	屋外体験活動		
夕食メニュー	ハンバーグ、人参の甘煮、茹でブロッコリー、カボチャのスープ	鯖の牛乳入り味噌煮、フレンチサラダ、五目汁	鶏肉のポテト焼き、中華風サラダ、洋風かき玉汁	
閉講式				公民館長ほか
その他				

## 実施までのスケジュール

実施日	項目	内容
5/上旬	各種団体へ通知	各種子育てに係る団体への協力依頼
随時	打ち合わせ	山形小学校の打ち合わせ
5月中旬	事業周知	全村民向け事業の周知
7月25日	参加者募集	
8月18日	参加者事前説明会	参加児童、保護者を対象に事業内容と日程に説明
8月30日	荷物搬入	
9月1日	通学学舎実施	ジュニアリーダー通学学舎実施
12月5日	公民館大会	通学学舎参加児童の代表が実践発表

## これから通学合宿を始める方へのアドバイス

何が何だか、子どもも大人も只々夢中な4日間でした。子どもたちは、普段とは違う不自由な生活の中で、学校では話したことのない友達と寝食を共にすることで、新しい仲間関係が生まれたり、知らない地域の大人とおおいに関わることで新しい地域コミュニティーが構築できたらいいな。と思いました。子どもを預ける保護者側では、子どもがいないことで、改めて子どもの尊さ、大切さを省みて家庭教育の振り返りをするきっかけになれば。と考えています。H25からは、実行委員会組織を立ち上げ子育て支援を行っている各種の団体等に横串を差すような活動ができればと思います。



## みんなでチャレンジ!通学合宿 2012 (坂城町)

実施日	平成24年9月23日(日)～25日(火) 2泊3日
参加者	村上小学校 4～6年生 16名
宿泊場所	上平公民館
主催者(実行委員会)名	上平区育成会
主催者の構成メンバー	上平区育成会
協力者	上平を元気にする会 上平ことぶき会 上平公民館 民生児童委員 上平区
食事づくり	子供達による自炊
入浴方法	宿泊場所にて
寝具	各家庭より寝具持参

### 通学合宿にかかった経費内訳

	区分	金額(円)	内訳
収入	参加者負担金	16,000	1,000円×16名
	市町村補助金	31,000	坂城町青少年を育む町民会議
	区・育成会補助金	11,621	
	その他		
	計	58,621	
支出	謝金(お礼)		
	旅費		
	消耗品費	7,732	修了証作成用品 写真記録用CD
	食費	50,889	
	通信費		
	賃借料		
	その他		
計	58,621		



## 通学合宿のプログラム

	1日目	2日目	3日目
朝食メニュー		ご飯 わかめスープ 目玉焼き	パン コンソメ スープ 野菜炒め
開校式	村上小学校長		
特別プログラム	山村町長講話	お楽しみ会	
夕食メニュー	牛丼・サラダ かきたま汁・漬物	ポトフ ハンバー グ つけもの	
閉校式			町民会議育成部会長
その他			

## 実施までのスケジュール

実施日	項目	内容
6月11日	6月定例会	今年度の実施日の確認・決定
7月9日	7月第1定例会	参加者募集・チラシ配布
7月28日	7月第2定例会	参加者とりまとめ
8月6日	8月定例会	育成会役員の役割決め
8月24日	協力団体長会議	上平区 公民館 上平を元気にする会 ことぶき会
9月3日	調整会議	スケジュール・分担調整
9月8日	説明会・研修	注意事項説明・班決め・献立決め・参加児童とスタッフ顔合わせ
9月10日	9月定例会	最終調整・確認
9月29日	通学合宿実施	

## これから通学合宿を始める方へのアドバイス

- 献立は児童に考えさせていますが、4年生の時から参加している児童は意見がたくさん出ます。
- 地域ボランティアの協力によって実施できていると思いますので地域の協力が重要。
- 通学合宿の名称等・経費は24年度の、プログラム・スケジュールについては25年度の内容を記入しています。



# 信濃町通学合宿（信濃町）

子どもの自立心・規範意識・家族や地域のつながりを大切にする気持ちを育てる



食事当番さん奮闘中



登下校は毎回地域の方とのふれあ  
いタイムとしました



班ごとに1日の振り返り。  
一日一句、俳句作りにも  
挑戦！



合宿長より全員に修了証  
授与

実施日	平成25年9月8日(日)～9月13日(金) 5泊6日
参加者	信濃小中学校 4年生9名 6年生4名 計13名
宿泊場所	いきいき倶楽部（信濃町介護予防拠点施設）
主催者（実行委員会）名	信濃町通学合宿実行委員会
主催者の構成メンバー	教育委員、社会教育委員、信濃町公民館、信濃小中学校、信濃町教育委員会、信濃町
協力者	信州大学教育学部、婦人会、食生活改善会、ふれあい広場しなの、看護師
入浴方法	宿泊場所にて
寝具	各家庭より寝具持参

## 通学合宿にかかった経費内訳

	区分	金額（円）	内訳
収入	参加者負担金	91,000	7,000円×13名
	市町村補助金	250,000	
	区・育成会補助金		
	その他	83,500	町会計より入浴施設使用料 35,000円 スタッフ食事代実費 500円×のべ97食 48,500円
	計	424,500	
支出	謝金（お礼）	109,900	教授4,900円、学生1日1,000円、婦人会1日3,000円、 食生活改善会1日3,000円、看護師1日1,000円、布団借用20,000円
	旅費		
	消耗品費	59,870	救急用品、生活用品、文房具ほか
	食費	135,570	
	通信費	16,270	切手
	賃借料	35,000	入浴施設使用料
	その他	11,955	保菌検査手数料、振込手数料ほか
	計	368,565	残額は翌年度へ繰越予定（事業進行中のため未定）

## 通学合宿のプログラム

	1日目	2日目	3日目	4日目
朝食メニュー	なし(午後から受付)	スクランブルエッグ サラダ、パン など	炒め物、味噌汁 ご飯 など	焼魚、納豆、野菜和え 味噌汁、ご飯 など
開校式				
特別プログラム	アイスブレイク オリエンテーション			
夕食メニュー	カレーライス サラダ など	三色丼、ナムル 味噌汁 など	ハンバーグ、サラダ スープ など	棒棒鶏、野菜炒め スープ、ご飯 など
閉校式				
その他				洗濯物交換

	5日目	6日目
朝食メニュー	スクランブルエッグ ウィンナー、茹野菜、 スープ、パン など	焼魚、煮物、味噌汁 味のり、ご飯 など
開校式		
特別プログラム	家族への手紙	終わりの会
夕食メニュー	サバの味噌煮、サラダ けんちん汁、ご飯など	手巻き寿司、すまし汁 漬物、デザート
閉校式		
その他		

## 実施までのスケジュール

実施日	項目	内容
5月29日	打ち合わせ	教育委員会・学校 打ち合わせ(計画の骨子確認)
6月13日	準備委員会	実行委員会の予定メンバーへの説明、計画案の提示
7月5日	①実行委員会	実行委員会編成、計画の確認、役割分担
7月12日	保護者説明会	保護者対象にした説明会(募集)
7月30日	②実行委員会	詳細確認、分担ごとの打ち合わせ
8月23日	参加者説明会	参加者確定。参加者(保護者・児童)説明会、参加費集金
〃	③実行委員会	最終確認、分担ごとの打ち合わせ
9月8日	合宿実施	
10月10日	事後アンケート	参加スタッフ全員、保護者、児童
11月8日	④実行委員会	反省会

## これから通学合宿を始める方へのアドバイス

今回が第1回目の実施であったため、今後も他地域での取り組みを参考にさせていただきます。

★好きな絵を描こう！！



3つの火

12月3日の通学合宿

2班

私は初めて通学合宿に参加しました。どんな事がまわっているのか、ドキドキしていました。当日、私が一番楽しかったのはダンスとキャンプファイヤりの点火です。火の神をよんだ時に

「友情の火」「あい情の火」「勇気の花」

3つの火の名前が出て来ました。私はあまり勇気を持て取りくんだ事がないし、友情は

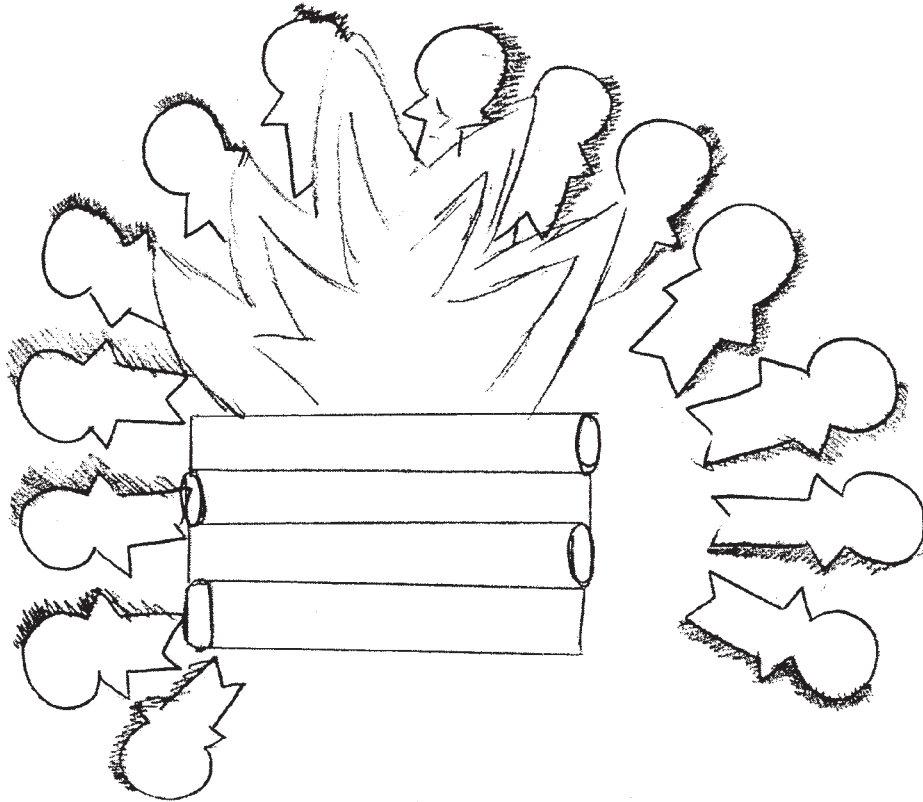
少しあるしあい情はあまりないのび今年が目標に私はする事にしました。ダンスはうまく楽しくできました。きもだめしはここもわく、へんな音がしたりいきなりおいかけ来たり。すごいびびりしたけど少し楽しかったです。私はステキなプレゼントをもらってと思います。それは

「指カケ」

と名前前のプレゼント。

★好きな絵を描こう！！

# 通学合宿サイコロ



「サイコロの通学合宿」  
9班

私は通学合宿に来たのは初めてじゃありません。しかし、一日目のダンス練習を見ていたら新しいダンスがあつて初めてきたかんじになりました。その後きもだめしに行きました。暗い森の中におはげがいてものすごくこわかつたです。

二日目は帰ってきてからすぐにBBQをしました。班のみんなが協力して作りました。焼きソバや焼き肉はとておいしかったです。その後、キャンプファイヤーは火の神のたましいがもえすぎで火のまわりで出来なかつたけれど、楽しかったです。高校生がせてくれた打ち上げ花火もすごく楽しかったです。

三日目は思い出作りをしました。高校生や班の人に書いてもらってものは宝物です。大切にしたいです。もうすぐ通学合宿はおわつてしまふけれどこの思い出は忘れません。

通学合宿サイコロ

自分の思い  
 リーダーズ班  
 私は約一年半、保健清掃係係長をやらせて  
 いた。0000です。みんな三日間あつ  
 かひ様でした。そして参加してくれてありが  
 とう。初めて参加してくいた子も、二回目以  
 上の子もどうだったかな？楽しめたり、友達  
 いらっぴりできたかな？  
 今回、みんなの前に立って、私の姿をみ  
 たらどう思ったのかな？保健は説明の多い仕事  
 だから、みんなに上手に伝わったかな？でも  
 思い出作りの本に、「優しかった」とか「あ  
 かりやすかった」って文が書いてあって、本  
 当にうれしかった。今の自分がいさよと、い  
 は、苦しさをからはじめたんだよね。去年  
 の通学で失敗をして、確認不足だと言われ  
 て本当に苦しがつたんだ。と二之氣持ち入  
 り変わって。責任感を強くもちはじめたか  
 だ。  
 でも、去年の出来事だけじゃなく、二の

3日間おつかひさでした!!  
 親もぜひ参加してね!  
 まっとう = }

みんな大好き♡  
 参加してくれて

ありがとおね。 " X "

中一から高二までの五年間です。二色んな  
 事を学びました。普段の生活ではなかなかや  
 りうとしたり、事や、人の上に立って指示をす  
 ると、いうこと。自分にとっても、為になるこ  
 とばかりでした。それに、たくさんの仲間と  
 も出会えることでもできました。今の高りのメ  
 ニバ、はもちろんな、OB、OGの方、後輩た  
 ち、事務局の方。たくさん送迎をかけたけ  
 ど、最後まで支えてくれました。本当にいい  
 人たちに会えました。時には、メニバ一回  
 まで、めたりもしたけど、その分だけ仲良く  
 なった。絆が繋がった。というのか、とにかく  
 リーダーズや、アアエかっただです。  
 リーダーズに興味もつたり、ぜひ入って下さ  
 い。この仲間にも出会えます。と、これは絶対だ。  
 本当に楽しかった三日間。  
 みんなありがとう。  
 また会おうね。

# みんながいてくれたから…。

高2 レディース係



今回の通学合宿は私にとって、1回目も2回目もかけがえない大切な合宿で、最高の合宿だった。そして、私がレディー係長として、高校2年と1ストップに立つ、前に立つ最後の合宿でもあった。

5年前、私が小学6年の時、私は初めてこの通学合宿に参加して、初めてこのリーダーズ倶楽部という組織を知り、「みんなもすこい中・高生がいるなんて…!!!」と感動した。あの旗に〇〇と一緒に「リ-77に入りたい」と書いた。そして、今回、私は2回目、あの旗に、私たちが前に立つ最後の合宿のあの旗にこう書いた。「リ-77に入りたい良かった。」

この5年間、本当に色々な事があって、時には「やめた」と思った時もあった。けれど、そんな時私を引き止めたのは、このリーダーズ一帯の良さでもある。「仲間ぞやる楽しさ」だった。仲間というのは、同じ学年の人だけでなく、先輩・後輩を含めた岡谷市リーダーズ倶楽部みんなのことである。みんなで、何か一つの事に夢中になってやるのが、本当に楽しかった。みんながバカめたいにさわたり、さうんだり、みんなが話し合ったり、語り、時には真正面からぶつかってケンカもしたりして…。でも、やっぱり最後にはみんなが支え合って、協力して一つになって…。みんなが、たくさん泣いて、たくさん笑って、たくさん怒って、怒られて、たくさんのごちそうを学んできた。私はみんながいてくれたから、ここまでやってこれた事ができた。みんながいてくれたから私はがんばれた。みんながいてくれたから、今回こんなにいい合宿を盛り上げる事ができた。みんながいてくれたから…。

小学生が笑ってくれたから私は元気になりました。また、がんばろうと思えました。中学生が支えてくれたから私は前に立てました。たくさんのパワーと支えをもらいました。事務局の方が裏でサポートして下さいたから、ケガもなく無事合宿を終えることが出来ました。本当に感謝しています。OG・OBの先輩方がたくさん怒って下さったから、今の私があります。ほめてもらった時は本当にうれしかったです。〇〇さんが時には厳しく、時にはやさしく私たちを見守って下さったから、今のリーダーズがあります。〇〇先輩がいて下さったから、今の高校生があります。本当にありがとうございます。高1がいてくれたから、昨年も最高の合宿を盛り上げる事が出来ました。本当に頼りになりました。高2がいてくれたから、この最後の合宿を笑顔で終える事が出来ました。〇〇ちゃん、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇。そして、〇〇…。本当に本当にありがとうございます…。みんなが同じ学年の仲間であって本当に良かった。

そして、今年一年私がレディー係長として前に立つのはみんなが盛り上げてくれたから、楽しんでくれたから、笑ってくれたから、支えてくれたから…。そして何より、いつもなかがとなりになってくれたからです。本当に本当にありがとうございます。一年、レディー係長として前に立ててくれて、本当に良かったです。たくさんのごちそうを学ばせてもらい、たくさん笑顔とかけがえのない思い出をたくさんもらいました。

この岡谷市リーダーズ倶楽部に入って本当に良かった。みんなに出会えて、本当に良かった。この岡谷市リーダーズ倶楽部は私にとって、大切な宝です。人生の財産です。かけがえのない存在です。みんなを支えになる先輩方、みんなを頼りになる後輩達、みんなを信頼できる同じ学年の仲間がいることを私は誇りに思います。

わたし、〇〇〇〇はこの岡谷市リーダーズ倶楽部が大スキです♡

みんなが大スキです♡ 本当に本当に、ありがとうございます。

みんなと出会えたこの「せき」に感謝です。

## 通学合宿アンケート

### 参加した子どもたちの感想

何でも自分たちでやることは、とても良い経験だと思いますので来年も行きたいと思います。

去年も参加したから、前回仲良かった友達にも会えました。自分たちで作ったごはんは、すごくおいしかったです。

自分たちで食事の用意をするのは、やったことがなかったので体験できて良かったです。初めての参加だったけど、特にレクリエーションがとても楽しかったです。この時は、宿題が多めでなかなか終わらなかったもので、宿題の時間をもう少しとって欲しいです。前にテレビを見ないでいた時に、とてもたいくつしたので心配だったけれど、それ以上にやることがあって大変でした。

ごはんや料理を作る楽しみがわかった。

4日間ありがとうございました。私は、みんなと寝るのとレクリエーションとご飯を作るのが楽しかったです。いつもやらないことをやって疲れたけど、楽しかったので良かったです。また、来年も行きたいけど、(中学生になって)行けないので、今年楽しめて良かったです。

4日間みんなと一緒に過ごして、料理や買い物とか大変ということがわかりました。違う小学校の6年生とは来年同じ中学校に通うことになるので、会える機会が増えると思います。色んなことを話せてとても楽しかったです。

地域の人たちに色んなことを教えてもらって、うれしかったし楽しかった。

みんなと仲良くなれて、すごく楽しかったです。だけど、勉強する時間が短くて十分にできなかったのが大変でした。お母さんの大変さが分かったので、良い経験になりました。

違う小学校の友達もできて、自分達の力だけで料理を作ったりすることが、とても楽しかったです。いつも、いろんなことをしているお母さんたちが、とてもすごいなと思いました。終わってから、家で自分の出来るお手伝いを前よりも進んでやることができたから、通学合宿に行つて良かったなと思いました。

違う小学校の子どもたちと友達になれて良かったです。それに、朝食や夕食を子どもたちだけで作れて、さらに買い物まで自分たちだけで出来て、色々学べて良かったです。

この通学合宿で良かったことは6つあります。・違う小学校の人とも仲良くなれたこと。・自分の学校から参加した人のほとんどと話せるようになったこと。・自分のうちではない所で4日間暮せたこと。・最後まで楽しく過ごせたこと。・通学合宿とクラブ活動の両方出来たこと。・来年もまた参加したくなったこと。この通学合宿は、とても楽しかったです。

すごく楽しかったです！去年も参加すれば良かったな一と思いました。大人の人達が優しくて良かったです。通学合宿のおかげで、違う小学校の友達が増えました。お買い物もすごく楽しかったです。みんなと仲良くなれて一緒に遊んだり出来て楽しかったです。

違う小学校の人達とたくさん友達になれて、本当に良かったです。レクリエーションが中でも楽しかったです。もう1回位、お風呂に行きたかったです。本当に楽しかったし、行って良かったと改めて思いました。

色々な経験ができて良かったです。料理も自分たちで作ったので良い経験でした。

料理を作るのが大変でした。でも自分から積極的に料理ができて良かったです。それで1番楽しかった時間は、レクリエーションをする時間です。色々なレクの遊びができて楽しかったです。初めての通学合宿だったけど、友達もいっぱいできたので、来年も参加したいと思います。

一週間仲良く遊べて楽しかったです。この合宿でしてきた体験をこれからの学校生活に生かして勉強を頑張っていきます。

私は、最後のあおきっこ合宿で友達もたくさん作れて、絆がふえた気がします。ありがとうございました。

一週間ありがとうございました。短い時間だったけどたくさんのおもいでができました。(大学生の皆さんは)また青木にきてください。



## 通学合宿に参加した地域の方・学生ボランティアの感想

子どもたちが皆で協力して食事の準備や片づけを積極的にやっていたので、少し手助けする位でした。学校や学年、男女関係無く皆で仲良く遊んでいる姿がとても良かったと思います。私も子どもたちと話をしたり、楽しい時間を過ごすことができました。親から離れて過ごした3泊4日は、子どもたちにとって一生忘れられない思い出になると思います。

子どもたちが楽しそうに活動していて良いと思いました。ただ、子どもと一緒に楽しめと言われても、どうして良いか困りました。この通学合宿は、家庭・地域・学校等の意見を聞きながら良い方向に進めていくことが良いと思います。

お世話になりありがとうございました。合宿に参加するような子どものせい、ある程度の協調性もあり、積極性もあり、良い子どもの集まりと感じました。地域の活動のなかで子どもたちにどう接したら良いか戸惑いがありましたが、この通学合宿では「構えず、余裕を持って行動を考えさせて、見守る」ことを体験させていただき、とても良い経験になりました。地域活動での子どもとのかかわりで生かしていきたいと思います。

学年が違う子どもたちが泊まって4日間を過ごすことは、普段の生活ではあまりないと思います。4日間で子どもたちは、大人が考え想像するより多くの何かを学んでいるに違いないと思いました。本当に大変なことですが、通学合宿を続けていただきたいと思いました。できれば、低学年の児童の参加も人数限定（少人数）でも良いので参加できれば、高学年の子どもたちも何か学び、感じることもあるのかなと思いました。

初めて参加しました。子どもたちの通学合宿ではあったのですが、自分も思い出に残る貴重な体験ができ、本当にありがとうございました。

子どもたちが生き生きしており、調理を一緒にするなど、子どもたちのみならず参加した大人たちも楽しく過ごせる時間でした。

子どもと一緒に楽しむことはできましたが、料理が出来るわけでもないので指導や手伝いといってもあまり役に立てず歯がゆく、自分として役に立っているのか実感がありませんが、見守り役はできたかと思いません。参加してみて、子どもはやっぱりかわいいと改めて感じました。当たり前のことですが、子ども一人ひとりに個性が感じられ、その個性を生かして大人になって行けると良いと思いました。

自分の子どもや知人の子どもで参加した子が近くにいないので、効果の程はよく分かりませんが、参加している子どもたちが、年代や学校を越えて仲良く楽しそうにしているのを見ると、確かに良い経験になっているのではと感じます。

最初はバラバラで個人でやりたいことをする姿が目立っていましたが、日を追うごとに上の子が下の子の面倒を見る、手が空いている子が困っている子を助けるという姿が見られるようになりました。

朝・夕食で嫌いなものが出てきても頑張って食べる姿にたくさん出会えた。

以前、いじめた側といじめられていた側の子が同じ班になってしまったが、一週間を通じて関係が少しずつ修復されていき、最後には一緒に遊んでいる姿を見てとてもあたたかい気持ちになった。

初日の時点では人の話をまったく聞かず、自分勝手な行動をしていた子も合宿最後には静かに話を聞けるようになっていた。



## 参加した子どもたちの保護者からの感想・要望

普段出来ない経験やお友達と色々なことができて、とても楽しい4日間だったようです。家では、ぜんぜんお手伝いもしてくれませんが... 汗をかく時期なので、お風呂は出来れば毎日入れて欲しいです。それ以外は、本当に良い事業だと思います。親や学校だけでは、させてあげられない経験をさせてくださり、どうもありがとうございました。

2年連続でお世話になりました。始まる前からとても楽しみにしていて、仲良しの友達と色々な計画を考えながら合宿に望みました。親としては2回目なので、何の心配も無く「楽しんでおいで!!」という気持ちで送り出しました。この合宿でたくさんの友達ができ、友達と協力することを学び、頑張ることや我慢することを学んだと思います。来年は中学生になります。今から違う小学校のお友達との再会を楽しみにしている娘です。地域や公民館の皆様、2年間大変お世話になりました。是非、この通学合宿を続けていただきたいと思います。ありがとうございました。

親や普段の生活から離れて過ごした子どもの顔は、少したくましく見えました。ありがとうございました。

4日間大変お世話になり、ありがとうございました。昨年に引き続き参加させていただきました。前回、通学合宿から帰ってくると、すぐ「来年も絶対に行きたい」と言って、ずっと楽しみにしていました。親、家族と離れ、家ではやらないことや、みんなと過ごすうえで我慢しなくてはいけないこと、普段の生活では学ぶことの出来ないたくさんのことを学ばせていただいたと思います。この4日間の経験を、毎日の生活に活かされていくと思います。これからも是非、通学合宿事業を続けていただきたいです。

4日間、大変お世話になりました。ありがとうございます。違う学校の子や、学年の違う子と共に生活をするということは、なかなかできないことです。貴重な体験をさせていただきました。

今年で2年通学合宿に参加して、いつも自分でやっていないことでも、全て自分達でやる大変さも感じとってくれたようです。違う学校の友達や年の違う子たちとも、かわりを持って良かったです。楽しめたようで、喜んで帰ってきました。安心しました。色々ありがとうございました。

色々大変なこともあった様ですが、イヤイヤ行ったようです。友達と協力して行う大変さ、毎日の当たり前前に食べることの大変さを実感したと思います。疲れるので睡眠はしっかりとって欲しいと思います。本当に、ありがとうございました。

大変お世話になりました。あれだけの企画を実行いただき、本当にありがたく思います。まず、甘えん坊の娘が参加したい！と言い出したことにビックリでした。また、自分に与えられた役割を果たしてきた誇らしい顔も忘れられません。本当に意味のある合宿になりました。自分達で計画し、行動し、成し遂げるなんて経験は、なかなか出来ません。ただ、この暑さの中、毎日お風呂に入れば！と思います。まず、安全に！子どもを見守っていただきましたこと、本当にありがとうございました。娘は「来年も行く!!」と言っております。

同学年を越えたグループ活動ができ、上級生と仲良くしてもらい、とても喜んでいました。来年もまた、参加させていと思います。

通学合宿に参加させていただき、ありがとうございました。家族と離れ生活をするのがなかったので、今回の体験から息子は多くのことを学ばせていただきました。このようなことが出来たのは、公民館分館役員様をはじめ多くの方々の支援があり、子どもたちが経験できたことに感謝いたします。通学合宿では、何でも自分たちでということが多かったせいか、家に戻ってからも、自分が出来ることを進んで行ってくれます。また、料理をする楽しみや毎日の食事のバランスなども気にかけるようになり、自分でもやってみようと思うことが増えてきたかな？と思います。

3泊4日の長い期間ありがとうございました。初めて親と離れてか、3泊4日もあり、親も金曜日に来るまでドキドキでした。職員の皆様をはじめ、食改や地域の皆様に色々ご迷惑をかけたことと思いますが、3泊4日過ごせたことが、まずとても良かったです。自分以外の学校のお子さんとも過ごせ、班で色々協力して普段の生活では決して出来ない体験だったと思います。子どもも親も、目には見えないけれども、少し成長できたかと思います。

昨年度参加した子どもの保護者から良い合宿だったと聞いていたので、今回初めて子どもを参加させました。自分達の食事を買ひ物から料理、片付けまで全てやる経験は、子どもにとって、とても楽しかったようです。1班の人数が多かったこともあり、もう少し一人ひとりのやる量が多いと良かったように感じます。違う学校の児童との交流の場があるということに、とても魅力を感じています。中学、高校、社会人と、人とは常に関わりを持って生きなければならないので、人とにコミュニケーションの取り方を学べる良い機会だったと思います。4日間、子ども達がお世話になり、本当にありがとうございました。

とても良い経験ができたこと、親子共に喜んでいきます。最初は硬くなっていた子どもたちが、日々を過ごし、一緒に仕事をしてうちとけて仲良くなる「仲間づくり」が一番大切なことで、4日間色々な方にお手伝いいただきながら、楽しくその喜びを実感できている様子が嬉しく感じました。地域の方のなかで、子どもが知っている方に出会えて挨拶が出来たり、荷物をさくさく自分で用意できたり、成長している子どもの一面を知ることができました。大変お世話になり、ありがとうございました。信頼し子どもを預けることができました。来年も参加を希望しています。素晴らしい行事が続きますように。

とても楽しかったと言っていました。中学生になってもOBで参加したいと言っていました。家に帰ってきて、公民館に帰りたいと言うほど、とても充実した4日間だったようです。食事の栄養面を考えアドバイスしてもらいなど安心し、ありがたいと思っていました。家での食事より豪華で喜んでいました。通学合宿、年2回、春・秋などやって欲しいと子どもは言っていました。役員さんなど、ありがとうございました。

昨年に引き続き、2度目の参加となりました。学校と家以外のつながりを持つ貴重な機会だと思っています。一番下の子なので、家では何かと上の兄・姉たちに頼りがちなのですが、通学合宿では、人をあてにせず、割り当てられた役割を率先してこなす必要性を理解出来ていたように感じました。公民館や地域の皆様にも大変お世話になりました。ありがとうございました。また、来年も参加させたいと思っています。

楽しかったようです。ありがとうございました。夜が、かなり暑かったようです。食事を作るのに時間がかかり、ゆっくり食べられなかったのが残念だったようです。もっと、違う学校の人と話す時間があれば、良かったと言っていました。

先日は、お世話になりました。今回初めて参加させていただき、子どもにとっても親にとっても良い経験だったと思います。子どもがいない数日間は、兄にとっても初めて妹と長期に離れ、親にとっても同じでしたが、いつも居るのが当たり前だったのが居ないことで色々考えることができました。帰って来た娘は、何だかたくましさ倍増していたと思います。ありがとうございました。

4日間も親元から離れるのは初めてのことで、とても心配でした。新しい友達ができるのかな、着替えはちゃんとしているのか等と心配していましたが、帰ってきて聞いてみると、そんな心配は無用だったようです。家では、ほとんど手伝いをしていませんが、合宿ではちゃんと行動していたようで安心しました。家に帰ってきてからは～という、特に何も変わりませんが、きっと4日間、家族から離れて過ごしたことは、本人の自信につながっていると思います。たくさんの方に見守られて、無事に過ごすことができました。どうも、ありがとうございました。

親や普段の生活から離れて過ごした子どもの顔は、少したくましく見えました。ありがとうございました。

同学年を越えたグループ活動ができ、上級生と仲良くしてもらい、とても喜んでいました。来年もまた、参加させていと思います。

参加させるまで親の方が心配で仕方なかったが、(帰ってきた)子どもの顔を見て、参加させて良かったと思った。

楽しいことばかりでなく、役割を与えてもらったことに対し、真剣に取り組むことで周りとの協力することの大切さを覚えてきたように思います。

初めて参加させてもらいましたが、子どもがとても楽しかったようで良かったです。

親としては初めて一週間という長い期間はなれていたので少し寂しさもありました。「また来年もいきたい!!!」と子どもが言っていたので、ぜひ来年も参加させたいと思います。

## 通学合宿手引きの作成に御協力いただいた皆様

### ●通学合宿普及のための手引き検討会議メンバー

今井 淳（岡谷市教育委員会 生涯学習活動センター 主査）

上原 晶（上田市教育委員会 川西公民館 次長）

牛山 高彦（国立信州高遠青少年自然の家 企画指導専門職）

小池 千尋（県教育委員会事務局 文化財・生涯学習課 指導主事）

小岩井 彰（上田市立北小学校長）

佐藤 陽平（特定非営利活動法人グリーンウッド自然体験教育センター 常務理事）

鈴木 道郎（キャンパーズヴィレッジ自然学校代表、県社会教育委員）

※所属等は平成25年11月1日現在です（敬称略あいうえお順）。

### ●実施事例を提供していただいた市町村教育委員会

上田市教育委員会

岡谷市教育委員会

伊那市教育委員会

駒ヶ根市教育委員会

大町市教育委員会

青木村教育委員会

阿智村教育委員会

豊丘村教育委員会

山形村教育委員会

坂城町教育委員会

信濃町教育委員会

### ●表裏表紙デザイン

佐藤 陽平（特定非営利活動法人グリーンウッド自然体験教育センター 常務理事）



---

---

## 通学合宿手引き

平成 26 年（2014 年）3 月

発行：長野県 企画部 次世代サポート課  
〒380-8570 長野市大字南長野字幅下 692-2  
電話（026）232-0111 内線 2852  
E-Mail：jisedai@pref.nagano.lg.jp

---

---



# takarajima

こどもたちが育つ社会はキレイな「まる」であり、こどもを中心として様々な「縁」をつくっています。しかし、今は昔と比べ多様な社会となり「縁」が付きなかりにくいこともあります。表紙の左下の二つの「まる」は「大人」と「地域」。私たちがずくを出してきれいな「まる」にしたい。それぞれの地域がみんなのタカラジマになるようにサポートしたいと考え通学合宿の手引きを作成しました。こどもたちを地域みんなで育むことで、こどもたちのふるさと教育となり、地域の未来づくりになると考えています。